

2025年度  
登別市デンマーク友好都市  
中学生派遣交流事業  
研修報告書



## 目次

登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要……………1

- ・事業概要
- ・研修日程表
- ・派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
- ・派遣日程表

研修テーマ……………7

デンマークの成り立ち、食文化の特徴について

登別市立鷺別中学校 1年生 佐々木 煌我

デンマークの生活について

登別市立鷺別中学校 1年生 佐藤 駿輝

デンマークの食文化

登別市立緑陽中学校 1年生 高屋敷 幸也

デンマークの建築と街並みについて

登別市立緑陽中学校 1年生 宮崎 将宗

デンマークの国技・盛んなスポーツ

登別市立緑陽中学校 2年生 山内 陽斗

デンマークの生活様式について

登別市立緑陽中学校 3年生 及川 諭愛

デンマークの食べ物と日本との値段の違いについて

登別市立緑陽中学校 3年生 中村 柊里

デンマークの朝ごはん

登別市立西陵中学校 2年生 戒野 義文

日本とデンマークのイベントの違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3回生 大槻 樹音

感想文……………25

佐々木 煌我:最高に楽しかったデンマーク

佐藤 駿輝:デンマークに行ってきた感想

高屋敷 幸也:人生最高の体験

宮崎 将宗:デンマークに行った感想

山内 陽斗:感想文  
及川 諭愛:日本を離れた9日間  
中村 柊里:デンマークの思い出  
戒野 義文:デンマークへ行った感想  
大槻 樹音:たくさんの思い出ができたデンマーク

引率者報告書	48
団 長:小野 恭平 登別市保健福祉部健康推進グループ 主査 引率者:斎藤 智弥 登別市立幌別中学校教諭	
帰国報告会資料[派遣生徒]	62
帰国報告会資料[引率者]	144
友好都市協定書	168

# 事業概要



2025.07.01 結団式にて

## ○ 事業概要

### 1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や日本とは異なる生活・文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

### 2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、  
ファボー・ミッドフュン市

### 3 派遣期間

2025年8月7日(木)～15日(金): 8泊9日

### 4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、  
森の幼稚園 等

### 5 研修内容

(1)結 団 式：2025年7月1日(火)

(2)事前研修：2025年7月4日(金)～8月1日(金)計10回  
デンマーク王国の概要の学習、研修テーマの決定、  
英会話、デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習、  
デンマーク人一家との交流、派遣者懇談会(前年度派遣  
団引率者、派遣生徒及び保護者との懇談)など

(3)事後研修：2025年8月22日(金)～9月26日(金)計6回  
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：2025年10月2日(木)

## ○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月01日(火)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/中ホール	18:00~19:30
07月04日(金)	事前研修	デンマークの概要説明、昨年の様子紹介、リーダーの決定、アトラクション担当パート決定 研修テーマ検討、特技披露検討	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月08日(火)	事前研修	研修テーマ決定、 英語・デンマーク語レッスン、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月10日(木)	事前研修	手紙の書き方 英語・デンマーク語レッスン、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月14日(月)	事前研修	英語・デンマーク語レッスン、 アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月16日(水)	事前研修	アトラクション練習 キキさん家族との対話	市民会館/小会議室	16:30~18:00
07月22日(火)	事前研修	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月25日(金)	事前研修	アトラクション練習	市民会館/大会議室	16:30~18:00
07月26日(土)	事前研修	OB懇談会	市民会館/大会議室	09:30~12:00
07月29日(火)	事前研修	アトラクション練習	市民会館/中ホール	09:30~12:00
07月31日(木)	第2回保護者説明会(保護者)		市役所/第一委員会室	18:00~19:00
08月01日(金)	事前研修	総練習、最終打合せ	市民会館/大会議室	09:30~12:00
<u>08月01日(金)</u>	<u>市長へ出発あいさつ(派遣者)</u>		<u>市役所/市長応接室</u>	<u>09:00~09:30</u>
08月07日(木)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	05:00
08月15日(金)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	14:00頃
08月21日(木)	市長へ帰国あいさつ(派遣者)		市役所/市長応接室	16:30~17:00
08月22日(金)	事後研修	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月02日(火)	事後研修	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月04日(木)	事後研修	報告書作成	市民会館/大会議室	16:30~18:00
09月10日(水)	事後研修	報告書作成・帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月17日(水)	事後研修	報告書作成・帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月26日(金)	事後研修	帰国報告会リハーサル	市民会館/大会議室	16:30~18:00
10月02日(水)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立鷺別中学校	1年生	佐々木 煌我
登別市立鷺別中学校	1年生	佐藤 駿輝
登別市立緑陽中学校	1年生	高屋敷 幸也
登別市立緑陽中学校	1年生	宮崎 将宗
登別市立緑陽中学校	2年生	山内 陽斗
登別市立緑陽中学校	3年生	及川 諭愛
登別市立緑陽中学校	3年生	中村 柊里
登別市立西陵中学校	2年生	戒野 義文
北海道登別明日中等教育学校	3回生	大槻 樹音

引率者	団 長	登別市 保健福祉部 健康推進グループ	小野 恭平
	引率教諭	登別市立幌別中学校	斎藤 智弥

○ ホストファミリー名簿

派遣団氏名	ホストファミリー氏名・住所	家族構成
小野 恭平	Hans Henrik Hansens	
斎藤 智弥		
戒野 義文		
大槻 樹音	Luna Holmegaard Hessellund 「Anemonevej 2 5750 Ringe」	母: Mette Hessellund
中村 柊里	Josefine Laura Pustelnik Elkrog と Gry Valentin Olsen (Josefine 家にホームステイします) 「Hovedvejen 13 5750 Ringe」	母: Elin Pustelnik 父: Soren Emil Elkrog 兄: Alexander 姉: Anne-Cathrine 姉: Emma-Victoria
及川 諭愛	Alma Bruun Ringsing と Silke (Alma 家にホームステイします) 「Lillekrog 10 5750 Ringe」	母: Sanne Bruun Ringsing 共同母親: Irene Bruun Christensen 姉: Sia, 16歳 妹: Ellen, 11歳
佐々木 煌我 佐藤 駿輝	Asbjorn Spejlsgaard Thuesen 「Norremarksgyden 21 5750 Ringe」	母: Ann Spejlsgaard Thuesen 父: Peter Spejlsgaard Thuesen 弟: Oscar, 12歳 妹: Silje, 12歳
高屋敷 幸也	Silas Paludan Tjornelund 「Dalager 8 5750 Ringe」	母: Pernille Paludan 父: Thomas Tjornelund 兄: Rasmus, 23歳 兄: Simon, 20歳 姉: Ida, 17歳 弟: Jeppe, 11歳
宮崎 将宗	Gustav Klevang Nielsen 「Golfparken 94 5750 Ringe」	母: Carina Klevang 父: Carsten Klevang Nielsen 姉: Caroline, 15歳 弟: Bertram, 9歳
山内 陽斗	Viola Li Haugaard 「Dalager 18 5750 Ringe」	母: Zhao Li 父: Anders Haugaard Ibsen 弟: Sofus, 10歳

# ○ 派遣日程表

日付	時間	旅程	スケジュール	食事	宿泊施設
Day 1 8月7日 (木)	05:00	旅行団及び家族	登別市役所 本庁舎裏 駐車場集合	各自	
	05:15-	[市バス] 登別市役所 新千歳空港	市バスで新千歳空港へ空港到着後、搭乗手続き	機内食 (昼、夕食)	ホテル
	07:30-09:05	[航空] [NH50便] 新千歳空港 羽田空港 (T2)	羽田空港へ出発 羽田空港到着、出国手続き		
	11:35-18:10	[航空] [SK984便] 羽田空港 (T3) ⇒ コペンハーゲン空港	コペンハーゲン空港へ出発 コペンハーゲン空港到着 & 入国・到着手続き、荷物受け取り、税関検査		
		[徒歩]	コペンハーゲン空港駅まで徒歩		
	19:15-19:27	[列車] コペンハーゲン空港駅 コペンハーゲン中央駅	コペンハーゲン中央駅へ出発・到着		
	[徒歩] コペンハーゲン中央駅 ホテル	ホテルにチェックイン【コンフォートホテルヴェスターブロ】			
Day 2 8月8日 (金)		[徒歩] ホテル コペンハーゲン中央駅	チェックアウトしてコペンハーゲン中央駅まで徒歩	ホテル(朝食)	ホームステイ
	9:32-11:00	[列車] コペンハーゲン中央駅 オーデンセ駅	オーデンセ駅へ出発・到着【アネさんと合流】	オーデンセ市内 (昼食)	
		[徒歩]オーデンセ市内	オーデンセ市内を観光【アネさん案内】	ホスト(夕食)	
	16:52-17:19	[列車] オーデンセ駅 リング駅	リングへ出発、到着【ホストファミリーと集合】		
Day 3-6 8月9日 (土) ~ 8月12日 (火)		ファボー・ミッドフン市内 (別資料)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーと過ごす</li> <li>・ファボー・ミッドフン市役所表敬訪問</li> <li>・森の幼稚園訪問</li> <li>・リングフリー校授業参加</li> <li>・イエスコウ城見学</li> <li>・レゴランド見学</li> <li>・お別れパーティ 等</li> </ul>	ホスト	
Day 7 8月13日 (水)		ホストファミリー リング駅	リング駅に集合	ホスト (朝食)	ホテル
	09:21-09:45	[列車] リング駅 オーデンセ駅	オーデンセ駅へ向けて出発、到着	団体 (昼食)	
	09:57-11:06	[列車]オーデンセ駅 コペンハーゲン中央駅	コペンハーゲン中央駅へ出発、到着		
		[徒歩]コペンハーゲン中央駅 ホテル	荷物をホテルに預ける【コンフォートホテルヴェスターブロ】		
		[徒歩]コペンハーゲン市内	コペンハーゲン市内を観光	団体(夕食)	
		[徒歩]コペンハーゲン市内 ホテル	ホテルにチェックイン【コンフォートホテルヴェスターブロ】		
Day 8 8月14日 (木)		[徒歩]ホテル コペンハーゲン中央駅	チェックアウトしてコペンハーゲン中央駅まで徒歩	ホテル(朝食)	機内
	9:14-09:27	[列車]コペンハーゲン中央駅 コペンハーゲン空港駅	コペンハーゲン空港駅へ	団体(昼食)	
		[徒歩]	コペンハーゲン空港まで徒歩、出発手続き		
	12:45-07:55	[航空] [SK983便] コペンハーゲン空港 羽田空港 (T3)	羽田空港へ出発 羽田空港に到着 到着手続き、荷物受け取り、税関検査	機内食 (夕食、朝食)	
Day 9 8月15日 (金)	10:00-11:35	[航空] [NH59便] 羽田空港(T2) 新千歳空港		各自(昼食)	
	12:30-	[市バス]新千歳空港 登別市役所	市バスで登別市役所へ出発、到着、解散		

時差:デンマーク 日本時間より-7時間

# 研修テーマ



デンマーク王国 コペンハーゲン 人魚姫像にて

## デンマークの成り立ち、食文化の特徴について

登別市立鷺別中学校 1年生 佐々木 煌我

僕は、デンマークの成り立ちと、食文化について調べました。

まずは国の成り立ちと歴史についてです。デンマークの国名の意味は、ゲルマン民族の一派であるデーン人の国という意味だそうです。デンマークに行った中で、一番歴史を感じたのはイーエスコウ城です。登別マリパークニクスモデルにもなったイーエスコウ城は、ファボー・ミッドフュン市にある1554年にフラン・ブロッケンフスによって建てられた古城だそうです。城を建てた目的は、当時の有力貴族の権力と財力を表す拠点として建てられたようです。



マリパークに行くときに毎回綺麗なと思っていたのですが、本物を見るとやっぱりマリパークで見るよりきれいに感じました。城の周りにはトランポリンや遊具が置いてある公園や、車やバイクなどを展示しているミュージアムなどがあって、お城以外でもとても楽しかったです。

次はデンマークの食文化についてです。事前研修では、野菜がほとんど生状態で出たり、リコリス菓子という超独特なグミ？ガム？キャンディ？なのかわからないものが出たりすると聞いて、恐ろしかったのですが、僕のホストファミリーはちゃんと野菜を切ってサラダにして出してくれました。そして正直思ったより料理が美味しい！朝食は大体ワッフルやヨーグルトを出してくれて、昼食はりんごとバナナとサンドウィッチ、夜は美味しいパンや肉料理を振る舞ってくれたあと、デザートで、アイスクリームをクレープの生地で巻いたものや、りんごソースにクリームをかけ、最



後に砂糖入りオートミールをかけて食べるデンマーク伝統のデザートなどを用意してくれました。お米は一回も出ませんでした。どれも本当に美味しかったです。リコリスはアイスクリームのトッピングに一回出ただけで、思ったよりリコリスを食べる頻度は少なかったです。

デンマークはすごく町並みが綺麗だったり、色んなところにトラランポリンがあったり、夜 9 時頃でも空が明るかったりでとにかく興奮することがいっぱいある国でした。



## デンマークの生活について

登別市立鷲別中学校 1年生 佐藤 駿輝

私はデンマークの生活について調べました。その中でも気になったことが2つあります。

1つ目は「なぜデンマークの人々の幸福度が高いのか」についてです。私はデンマークについて調べたときによく見かける「幸福度」という言葉が気になっていました。気になって「デンマーク 幸福度」などで調べてみると、デンマークはとても幸福度が高い国だということがわかりました。右の画像を見てください。国の幸福度ランキングでも上位に入っていることが分かります。そこで次に「なぜ幸福度が高いのか」というところに疑問を持ちました。

世界156か国の幸福度ランキング

1位	フィンランド	7.809
2位	デンマーク	7.646
3位	スイス	7.56
4位	アイスランド	7.504
5位	ノルウェー	7.488
6位	オランダ	7.449
7位	スウェーデン	7.353
8位	ニュージーランド	7.3
9位	オーストラリア	7.294
10位	ルクセンブルク	7.238
62位	日本	5.871

そこで友好都市でもあるファボー・ミッドフュン市の市長になぜデンマークの人々の幸福度が高いのかについて聞いてみました。大きく分けると4つ理由があることがわかりました。

- 1つ目は「自然災害が少なく安定している」、
- 2つ目は「政治的にも安定している」、
- 3つ目は「人々がお互いを信頼し合っている」、
- 4つ目は「社会福祉が充実している」でした。

1つ目の理由である「自然災害が少なく安定している」は幸福度が高い国ならではの理由の1つです。デンマークでは地震や津波などの自然災害が少なく、山が少なく地震による土砂崩れなどもほとんどない平和な国です。2つ目の理由の「政治的にも安定している」というのは、「民主主義と福祉国家の支持」、「合議と妥協の文化」、「政府への高い信頼度」、「経済的な安定性」など様々な理由が挙げられます。3つ目の理由の「人々がお互いを信頼し合っている」は私にとってはデンマークが幸せである理由の一番の要因だと考えています。お互いが半信半疑のままにか物事を進めるよりもお互いが信頼し合って物事を進めるほうが気持ちになります。人々がお互いを信頼し合っているからこそ、みんな自分のやりたいことをすることができ、幸せだと思うのでしょう。そして4つ目の理由である「社会福祉が充実している」というのはこれまた、幸福度が高い国ならではの理由です。デンマークでは「消費税が25%」、「所得税が50%超え」ということの代わりに医療費のほとんどが「無料」であったり、介護福祉サービスが受けられたりといった手厚い社会福祉サービスを提供しています。日本の社会福祉とデンマークの社会福祉で違う最大のところは、「社会福祉にかかわる財源を全て税金で賄っていること」です。

気になったこと2つ目は「なぜデンマークは自然災害が少ない国なのか」についてです。

ファボー・ミッドフュン市の市長が言っていた通り、デンマークはとても自然災害が少ない国です。ではなぜ、デンマークは自然災害が少ない国なのでしょう。その理由として考えられるのは、「プレート境界から離れた安定した地殻に位置していること」、「地震や河川の氾濫が比較的少ない地理的条件によるもの」です。これらの理由により地震や津波の恐れが少ないうえに、デンマークは山がほとんどなく、平らな地形のため、豪雨による土砂崩れなどの危険性がほとんどありません。実際にコペンハーゲン市、リンゲ市、オーデンセ市、ファボー・ミッドフュン市などさまざまな場所に行きましたが、山は一つも見ませんでした。泊まったホストファミリーの家からも見えたのは、高い山々ではなく、平らな地形の畑や牧場ばかりでした。日本と比べてデンマークは山がとても少ないため、土砂災害などの自然災害がほとんど起きない。これもデンマークの人々が幸せだと思える理由の1つでもあります。また、「平らな地形」のため、自転車を利用する人が車を利用する人より圧倒的に多かった印象があります。「自転車に特化した質の高いインフラが整備されていること」、「自動車税の高さや環境意識の向上による脱自動車政策」などといった理由で自転車を利用する人が多いとも言えるでしょう。下の2つの写真を見てください。これは実際に僕が現地に行って撮ってきた写真です。



2つともコペンハーゲン駅前で撮った写真です。確かに日本でも駅前には多くの自転車が置いてあることはありますが、ここまでの数の自転車が並べられてるのは初めて見たのでとても驚きました。日本とデンマークでこんなにも交通機関が違って、自動車よりも自転車優先という文化があるのはとても驚いたし、更に日本とデンマークではどんなところに違いがあるのか細かいところまで知りたいという気持ちが湧いてきました。

私は今回この事業を通して、研修テーマであった「なぜデンマークの人々の幸福度は高いのか」、「なぜデンマークは自然災害が少ない国なのか」ということ以外にもたくさんのことを学びました。交通機関のことやいろんなことなど、日本とデンマークでは全く違う文化がたくさんあることも知りました。何をしてもとても楽しかったのでまたデンマークに行きたいと思いました。もし、またデンマークに行くことがあったら次は、デンマークの生活や交通機関だけでなくさらにさらに細かいところまで聞いて学びたいと思います。

## デンマークの食文化

登別市立緑陽中学校 1年 高屋敷 幸也

僕はデンマークの食文化について調べた。

まず、デンマークの食習慣について説明する。通常、食事は3食であり、夕方に軽食を食べることもある。また、デンマーク人は食の美味しさにあまりこだわらないためシンプルな料理が多い。温かい料理では豚肉が一般的であり、よく食べられている。ビールやワイン、ソフトドリンクや水が一般的な食事の飲み物であり牛乳はあまり飲まない。また、デンマーク人はフルーツをよく食べるのだ。ホームステイ中の食事では朝昼晩は必ずフルーツが出され、おやつもフルーツが多かった。

次に、朝昼晩の食事について詳しく紹介する。朝食はパンが中心だ。黒くて硬いライ麦パンにバターやチーズをのせたものやロールパンが定番だ。オートミールやコーンフレークなどのシリアルもよく食べられている。僕はホストファミリーの家で初めてシリアルを食べたのだがとても美味しかった。また、朝食にはチーズも欠かせない。デンマークは美味しいチーズが有名なことで知られている。クリーミーなものから味が濃いものまで種類は様々だ。



昼食はスモーブローを食べるのが一般的だ。スモーブローとはデンマークの代表的な料理の一つで、パンの上に卵や肉など様々な具材をのせたオープンサンドイッチのことだ。多くの人たちは学校や職場の休憩時間を利用して食事をする。ホストファミリーから聞いたが、驚くことに、デンマークの学校では給食という概念がなく、自分で持ってきた食事を各自食べるというスタイルなのだ。

そして、軽食は短いフランスパンにソーセージをはさんだ「フランスホットドッグ」やデニッシュをよく食べる。

夕食は通常メイン一品のみの温かい料理とジャガイモ料理や野菜などのサイドメニューからなり、多くの場合メインは肉料理である。肉料理は、ミートボールやローストポークがよく食べられている。料理にクリームソースなどのソースが添えられることが多々ある。



次に、デンマークの有名な伝統料理について紹介する。一つは先程も紹介したスモーブローである。ライ麦パンの上に魚、卵、野菜、チーズなど様々な具材が華やかに盛り付けられてる。レストランでもよく食べられている。また、「フリカデラ」も有名だ。これはデンマーク風のミートボールで、家庭料理として親しまれているものだ。

また、「リースアラマン」というデザートも非常に有名である。これは牛乳粥にバニラと砂糖とホイップを混ぜたソースにチェリーソースをかけて食べる美味しいデザートだ。僕はホストファミリーに作ってもらって食べたのだが、ひとくち食べると美味しすぎて手が止まらなくなり、思わず沢山食べてしまった。



最後に、僕がデンマークの食文化で驚いたことについて説明する。それは、ベーコンの形状が日本と大違いであるということだ。デンマークで料理で出されるベーコンは焦げていてカリカリ食感であり、一切れがとても小さいのだ。だが、味はとても良かった。また、フライドポテトにはケチャップではなくマヨネーズをつけるのが定番ということにも驚いた。ホームステイ中の食事でポテトにマヨネーズをかけた状態ででてきたのだ。ホストファミリーに聞いてみると、デンマーク人にとってはケチャップよりマヨネーズのほうが美味しく感じるそうだ。



ズのほうが美味しく感じるそうだ。

このように、デンマークではシンプルな食事が多く、朝と昼はパン、夕食は温かい肉料理を食べているなど、日本と大きく食文化が違うことがわかった。また、今回の研修を通して僕は他の国の食文化についてもっと知りたいと思った。

## デンマークの建築と街並みについて

登別市立緑陽中学校 1年生 宮崎 将宗

私は研修テーマとして、「デンマークの建築と街並み」をテーマにしました。

その中でもまず、デンマークの伝統的な街並みについてお話します。デンマークを訪れると、その独特で魅力的な建築様式と、そこに息づく温かい街並みに心を奪われます。赤レンガの建物、カラフルな家々、そして歴史を感じさせる運河が織りなす風景は、まるで異世界に迷い込んだかのようでした。首都コペンハーゲンは、その代表例だと思います。ニューハウンの運河沿いに並ぶ、パステルカラーの建物。かつて船乗りたちが集ったこの場所は、今ではカフェやレストランがあり、観光客や地元の人々で賑わっていました。



次に、デンマーク建築を見て気がついたことをお話しします。デンマークの建築は、古いものと新しいものが調和しているのが特徴だと感じました。歴史的なお城や教会が大切に保存されている一方で、大胆なデザインの現代建築も積極的に取り入れられています。例えば、コペンハーゲンにあるオペラハウスや、自転車専用の橋など、革新的なデザインが古い建築と相まってより引き立たされていました。また、街全体に自転車文化が根付いていることも、デンマークの街並みを特徴づけていま

す。専用の道路が整備され、多くの人々が自転車で移動することで、街はより人間的で、現代的でありながら落ち着いた雰囲気を感じました。

またデンマークに行って現地の温かさやおしゃれな雰囲気を感じ取りたいです。



## デンマークの国技・盛んなスポーツ 幸福度が高い秘訣！？

登別市立緑陽中学校 2年生 山内 陽斗

### はじめに

私は小さい頃からバスケットボールを習っていて、バスケットボール以外にもたくさんのスポーツに興味を持っていました。そこでデンマークへ派遣していただけることとなり、日本から遠く離れた欧米のスポーツ文化に興味を持ったので、デンマークのスポーツについて現地でたくさん調べてきました。

### 国技：ハンドボール

私はハンドボールについてあまり知らないなので、調べました。まず、7人(フィールドプレイヤー6人とゴールキーパー1人)のチームが相手のゴールにボールを投げて得点を競うスポーツで、前半後半各30分間に15分のハーフタイムがあります。ハンドボールは19世紀にデンマークで生まれたスポーツです。今年、209カ国が参加したIHF世界男子ハンドボール選手権大会で史上初めて4連覇を達成しました。日本は19位。現地の方はデンマークハンドボールリーグをよく見るらしいです。日本からもデンマークリーグに挑戦してる人がいるようです。



### 盛んなスポーツ：フットボール

デンマークなどのヨーロッパ諸国ではサッカーのことをフットボールと呼ぶから、ルールはサッカーと全く同じです。11人(フィールドプレイヤー10人とゴールキーパー1人)で足を使い相手のゴールにボールを入れ、得点を競うスポーツです。デンマークの国際チームは、ユーロカップでは1992年に優勝しているが、ワールドカップではあまりいい成績は残せていないようです。

現地の小中学生は野球やバスケットボールをやっている人は少なく、なにかスポーツをやっている人のほとんどがフットボールをやっていました。また、デンマークではフットサルという屋内や屋外の小さなコートで5人(フィールドプレイヤー4人とゴールキーパー1人)制のサッカーも盛んに行われており、私のホームステイ先の子は、夏に外でフットボールをし、寒い冬は屋内でフットサルをやっていると言っていました。



### 盛んなスポーツ : ロードレース

私はファボー・ミッドフュン市の市役所に訪れたとき、市長が「ファボー・ミッドフュン市では健康と地球温暖化防止のため、自転車の使用を呼びかけている」と仰っており、確かに自転車を使っている人が多いなと感じました。ファボー・ミッドフュン市に限らず、昔からデンマークでは自転車の使用が多かったので、自転車でレースをするロードレースが盛んになっていったとも仰っていました。また、大人が自転車で通勤した場合にはボーナスを支給したり、地域バスや電車など公共の乗り物でも自転車の持ち込みが許可されていたり、自転車専用道路があったりと、自転車へのサポートも充実しています。



私は普段、自転車に乗って友達と遊びに行ったりするので自転車へのサポートが多いのはとてもいいことだと思うし、日本でも採用してほしいと思います。

### 最後に

デンマークのスポーツ文化についてたくさん知ることができました。ハンドボールは日本であまり馴染みがないスポーツなので体験してみたいです。また、国が自転車を推奨しているのは車を運転できない私達にとってはとても羨ましいと思いました。

9日間デンマークで学んだことを活かして、これからも生活していきたいです！

## デンマークの生活様式について

登別市立緑陽中学校 3年生 及川諭愛

この派遣で私はデンマーク人の生活様式について調べました。

日本とデンマークは約 8700km も離れ、7時間も時差があります。

そこで私は日本と日常の過ごし方も違うのではと考え、このテーマにしました。

ここで紹介するものは私の体験を参考にしたものです。

起床は日本と同じように6～7時で、朝食はパンやコンフレークなど軽いものを食べます。学校の校区範囲が非常に広いので徒歩や自転車、車、バスなど様々な方法で登校しています。私達が見学した学校では自転車で登校している人が多く、駐輪場が3箇所ぐらいにわけていました。登校時間は8時までで、そこから約一時間ずつ科学やドイツ語の授業を受けていきます。昼食はお弁当を持参し、10時と12時(残りのお弁当)2回ずつに分けて食べます。

仕事は7時～8時に出勤と早めで、残業が全くないそうです。家族で集まることが大切にされているので、夕方の5時までには帰宅できるようになっています。



デンマークでは宿題があまりでないので、放課後になるとすぐに公園に行ったり散歩をしたりと外で遊ぶ事が多かったです。公園にはちょっとしたフィットネス器具があったり、日本にはない遊具も多くありました。必ずといっていいほど毎回公園にあったのがトランポリンで、ホームステイ先の庭にもありました。トランポリンは体育の授業でもやるらしく、何個か技を見せてくれました。



家では日本と同じようにゲームをして過ごします。SwitchやUNOなど日本にあるゲームもありましたが、カードにあった絵柄のものを探す、というデンマーク流のボードゲームなど、見たことのないホビーゲームがとても多かったです。実際にいくつか遊んでみましたが、分かりやすいルールですぐにハマってしまいました。



また、ホームステイ先の子と話して判明したことです。デンマークには門限がないそうです。なので子供が夜に外出をすることも親が許可する範囲で可能で、夜のパーティーに参加することもできるそうです。

デンマークは高緯度に位置しているため日本よりも明るい時間が長く、画像の通り20時でも夕方と思うくらい明るかったです。この環境もその理由につながっていると思います。

(20時半頃のコペンハーゲン)

夕食には家族みんなで食卓を囲むことが当たり前となっています。

私がホームステイをしたときは毎回人参とキュウリを含んだサラダと、ピザやトルティーヤなど味がしっかりしているものがだされました。滞在中、一度お米料理が出されましたが、お米にソースのような味がついていて全く知らない料理でした。お米を食べる際にもフォークとナイフが使われていてびっくりしました。

夕食を食べ終わると、リビングで家族で集まって過ごします。これはデンマークに根付いているヒュグゲ(Hygge)というライフスタイルで、家族で集まって語り合ったりして親密な時間を共有する、というものです。これにはストレスの軽減、睡眠の質の向上が証明されており、デンマークが幸福度の高い理由の一因ともされています。実際私のホームステイしたところでも夕食後にリビングに集まりました。間接照明のみになったリビングで話したり、編み物をしていたり、テレビを見たりとゆったりしてとても心地よい空間でした。

そして21時半ごろから寝る準備をし、22時には就寝という流れでした。

これが私の体験したデンマークの一日の流れです。学校の時間割や放課後の過ごし方などが違うのは少し予想外でした。

日本に比べて時間に対してあまり厳しくなく、マイペースな方もおかったので一緒に行動していて焦ったり急かされたり、ということが少なかったため過ごしやすかったです。また、世界各国で注目を集めている「Hygge」も体験することができて良かったです。この経験を活かしてもっと家族との時間を大切に暮らしていきたいと思いました。

## デンマークの食べ物と日本との値段の違いについて

登別市立緑陽中学校 3年生 中村 柊里



私はデンマークに行ってきたたくさんの経験をしました。また、私はデンマークに行ってきたデンマークと日本の食べ物の値段の違いについて調べました。

すると、日本とは違った不思議なことや面白いことがたくさんありました。

まずはデンマークの食べ物について紹介します！

デンマークに行くと日本にはない食べ物が出てきました。美味しいのか分からず不安でしたが、食べてみると美味しかったです。ホームステイをしているとき毎日出てきた食べ物があるので紹介します！

1つ目はお肉です。日本でも普通に出て来ますが、デンマークのお肉はちょっと違いました。バジルのようなものがかかっており、柔らかかったです。柔らかくあいはフォークに刺さらずに肉が潰れるくらいでした。私がフォークとナイフに慣れていなかったものの、“こんなに柔らかいの”というくらい不思議なお肉でした。

2つ目はパンです。日本にもありますがその倍くらい美味しかったです。パンにも様々な種類があり全てのパンを食べてみるとめちゃくちゃ最高でした。ですが食パンが出てきても日本のように焼かずそのまま食べるので不思議であり口が進まなかったです。ピクニックなどに行くときはサンドイッチが出ました。サンドイッチは食パンと違う味がして美味しかったです。デンマークの食べ物を食べて一番好きな食べ物でした。ですがデンマークと違って毎回昼を持っていくことはないのも不思議でした。

3つ目はポテトチップスです。日本では夜ご飯におやつを食べないのでとても不思議に感じました。ホームステイの人はお肉とポテトチップスの上に何で作ったかはわからないけれど、たれをかけて一緒に食べていたので、最初は“まずそう”「あまり美味しくなさそう」と思いましたが、いざ食べてみると結構お肉と合っていて美味しかったです。ですが、日本に帰ったらたれがないし、食べようとは思わないので“デンマークで食べれてよかったな”とは思いましたが、やっぱりポテトチップスはそのまま食べたほうが美味しいと思いました。

4 つ目はピーナッツです。日本にもありますが毎日は食べません。デンマークはホームステイの人たちと遊んだときでも食べますし、朝ごはんなどにも出てきます。味もなくてあまり好きではなかったけど、デンマークの人たちはどのような時でも普通に食べるのだなあと思いました。デザートするときにも食べるのでとても不思議でした。

5 つ目は人参です。日本は茹でて食べるものですが、デンマークは生なのでとても違和感がありました。生で食べるのに慣れていなくて最初は美味しくないと思いましたが、毎日食べていたら慣れてきて好きになりました。でもサラダや茹でて食べるのが一番美味しいなと思いました。

このようにデンマークに行って食べ物についてたくさんの不思議を見つけました。生で出てくる人参など日本にはあり得ないご飯です。ポテトチップスなどもご飯のたびに毎回は食べないので1回でもいいから家族やいとことかでお肉と一緒に食べていきたいです。

次に日本との値段の違いについて調べました。デンマークのスーパーに行って驚いたことがあるので紹介します！



日本では飲み物一本 100 円ぐらいだけどデンマークでは一本 200 円以上でした。300 円はしませんが、私にはしたら高いなと思いました。×23 ぐらいするのでめちゃくちゃ高かったです。お菓子なども1つ 150 円くらいしたし、パンも 300 円ぐらいしていました。日本とは全然違うのでびっくりしました。デンマークは物価が高いのは知っているけどあんなに高いとは思いませんでした。

日本と値段が違って驚いたけど逆にめちゃくちゃ面白かったです。値段については国によって色々違うのでいろいろなところに行ってみたいです。この経験で値段について学べたし食べ物についても学べたので良かったです。親とかにも教えてあげたいです。

## デンマークの朝ごはん

登別市立西陵中学校 2年生 戒野 義文

日本とデンマークでは、朝ごはんは何を食べるかを調べました。共通点と相違点、合わせて4つあるので発表します。

まずは、共通点を発表します。

1つ目は、「毎日朝ごはんを食べる」ことです。日本でも毎日朝ごはんは、食べるのですが外国では、一週間に三、四回しかないと思ってましたが、毎日食べていたので良かったです。家庭によりますが、日本では、朝ごはんを食べずに学校に行ったりしている人がいて大丈夫か心配になっていたりしていました。



次は、相違点をいいます。

1つ目は、「一つの料理に食材の種類が少ない」です。日本では、朝ごはんを食べるときご飯に味噌汁、ポテトサラダとかその他いろいろなご飯にいろいろな食材が使われていていいですがデンマークでは、一つのご飯に調味料を加えている感じが多かったです。各家庭では違うかもしれないし、日本でもパンとか目玉焼きのものもありますがデンマークでは、それが多かったです。

2つ目は、「お米がない」です。ヨーロッパの主食がパンやじゃがいもなのでそりゃないです。けど、朝ごはんではないけど、パーティーなどのときは、お米があつてとても美味しかったです。

3つ目は、「副菜や汁物などがない」です。日本では、ご飯、汁物、副菜などなどいろいろなものが入っているものがありますが、デンマークでは、そういう区別みたいなものがなかったです。日本でも家庭によって違うっていうのもあると思いますけどね。

これで研修のテーマの発表を終わります。

## 日本とデンマークのイベントの違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3回生 大槻 樹音

私は今回の派遣で、「日本とデンマークのイベントの違い」について調べてきました。海外ではクリスマスや誕生日などのイベントを盛大に祝うというイメージがあり、デンマークでは実際にどのように過ごしているのかを知りたいと思ったことがきっかけでこの研修テーマを選びました。

デンマークでは、パーティーへの価値観やイベントの祝い方など、日本とは大きな違いがたくさんあり、何度も驚くことがありました。これらについて、いくつか紹介します。

1つ目は、パーティーの開き方です。デンマークでのパーティーは手作り感が強く、自分たちで雰囲気を作り上げていくようなものです。そして、デンマークに「ヒュッゲ」(居心地の良い空間)という考え方があるようにリラックスした中で仲間と話したり食事を楽しんだりするスタイルでした。

さらに、食事についてはホストファミリーが作った料理を持ち寄り、バイキング形式でそれぞれが好きなものを取って食べる形でした。これに対して日本では、職場や学校、クラスなどの単位でお店に集まり食事を楽しむというパーティーが一般的だと感じます。



2つ目は、パーティーのイベント性が高いことです。

デンマークでは、誕生日やクリスマス、イースター、夏至祭などの季節のイベントが盛大に祝われています。私は派遣中に誕生日を迎え、とてもいい思い出を作ることができたので、ここでは特に誕生日について紹介します。

まず、デンマークの誕生日の祝い方の大きな特徴は、家を国旗で飾ることです。誕生日以外にも学校の教室に国旗があつたり、スーパーマーケットでは国旗柄のストローやろうそくが売っていることがあり、愛国心が伝わってきます。デンマークでは国旗が生活の一部となっているのだろうと感じました。

また、日本では食卓や誕生日ケーキを囲んだときにバースデーソングを歌うのに対し、デンマークでは誕生日の朝、寝起きに祝ってもらうのが一般的なことも特徴です。特別な一日を最初から大切にしている意味が込められているそうです。とても考えられていてあたたかい習慣だと思いました。

これらのことから、日本とデンマークのパーティーについて比べてみると、日本では、お店での開催が多く、歓迎会、忘年会、新年会など形式を大事にする職場や学校中心のパーティーが多く行われています。反対に、デンマークでは、友人や家族の家に集まることが多く、食事を一緒に作ったり持ち寄ったりするホームパーティー文化が根づいています。どちらのパーティーも人と人のつながりを大切にしている素晴らしい文化だと思います。

派遣中の始業ピクニック、お別れパーティーからも文化の違いというものを実感しました。

このように、デンマークと日本はパーティーやイベントに大きな違いがあることを今回の研修で学ぶ事ができました。この経験を活かして、一度日本でも周りの友達とホームパーティーをしてみたいと思いました。



# 感想文



デンマーク王国 コペンハーゲン ニューハウンにて

## 最高に楽しかったデンマーク

登別市立鷺別中学校 1年生 佐々木 煌我

自分がデンマークに行って肌で感じた、日本との違いや、思い出に残ったことなどを紹介します。

まず飛行機は、人生で2回目なのですが、乗る前はアジア方面を通っていくのかなと思ったのですが、ベーリング海峡の方を通ってデンマークに向かっていったので、びっくりしました。そして飛行時間が13時間もあって、色んな映画を見たり、UNOやテトリスなどのゲーム、現在飛行している位置や屋外カメラを見たりできたとはいえ、暇でした。機内食はサラダやパンなどが出てきて、思った以上に美味しかったです。

次は街並みです。デンマークに着いて感じた、日本と明らかにちがった点は都市の雰囲気でした。説明するのはとても難しいのですが、とにかく根本的な雰囲気が違って、まるで童話の中の世界のようなでした。カメラでどこを映してもおしゃれなので、写真が増えすぎて困っちゃうくらいでした。その中でもイーエスコウ城やアマリエンボー宮殿、ニューハウンなどの名所はとてもきれいで、西洋に来たという実感が湧きました。

続いては食事です。デンマークに着いて最初の食事はコペンハーゲンのスーパーで買ったグミです。味はまさに「海外のグミ」って感じだったので正直「おいしい！」って感じではありませんでした。同時にFAXEKONDIというデンマークで有名な飲み物を買いました。最初の味の感想は普通のジュースかなくらいでしたが、ホストファミリーの家や、売店で飲んでいくうちにハマって行って、日本に出発する直前、



FAXEKONDI と離れるのがさみしくなるほどでした。グミを買った日の翌日、ホテルで朝食をとるとき、正直味には期待していませんでしたが、食べてみたら日本のホテルに負けなくらい美味しかったです。その後ホストファミリーの家でもいろんなものを食べましたが、どれも思っていた何倍も美味しかったです。

ホストファミリーは、とても優しくて、とてもすごい人たちでした。お父さんは大工の会社の社長、お母さんは自分のマッサージクリニックを持ち、夫婦揃って射撃の元オリンピック選手で、敷地にはブランコ、固定されたトランポリン、日本原産の鯉がいる池、テニスコート、おっきい車庫、サッカーができるスペース、これから飼う予定のウサギ小屋などがあってすごい家と家族たちでした。7年生の子はアスビョルンと



いって、運動神経抜群で、そしてとっても優しくかったです。その弟と妹もとても優しくて、レゴの人形をプレゼントしてくれたりしてくれました。兄弟たちと一緒に卓球やサッカー、トランポリン、バスケ、動画鑑賞、渡したお土産で遊ぶなど、たくさんの楽しい思い出をつくりました。そして家族みんなから、自分たちに向けて、デンマークのお土産をたくさんもらいました。どれも素敵なものばかりで、とても嬉しかったです。ホストファミリーと過ごした約5日間はとても楽しくて、特別な時間でした。こんなにもてなしてくれたホストファミリーのみんなには本当に感謝しています。

最後に楽しかった遊園地のことについてです。レゴランドではレゴで作られた可愛い動物や街、オブジェクトを鑑賞したり、ジェットコースターに乗ったりしました。コペンハーゲンのチポリ公園では、80メートルの空中ブランコや、ジェットコースター、高い所から落ちるアトラクションなどに乗りました。アトラクション以外は、さすが世界最古の遊園地だけあって、すごく雰囲気が良く、すごい綺麗で迫力がある門や、外見がきれいなホテルなどがあって、アトラクションはもちろん、アトラクション以外の部分でも楽しめました。



デンマークで過ごした日々はどれも本当に最高に楽しくて興奮した思い出になりました。いつかまた行けたらいいなと思っています。

## デンマークに行ってきた感想

登別市立鷺別中学校 1年生 佐藤 駿輝

これから僕がデンマークに行って楽しかったと感じたことや驚いたことをまとめて紹介します。

1つ目は飛行機の中です。僕は飛行機には何回も乗ったことはありましたが、国際線の飛行機に乗るのは初めてでした。飛行機に乗って指定された座席に行くと、座席には枕とひざ掛けが置いてありました。座席の目の前にはタブレットも置いてあり、そのタブレットでは映画やドラマ、アニメやゲームなど様々なことをすることが出来ました。飛行機の中でみんなでゲームをしたのはとても良い思い出です。飛行機関連で言うと機内食も美味しかったです。機内食を食べるのは初めてだったので、どんなのが出てくるかわからなくて少し不安だったけど、パンやサラダ、フルーツなどとても美味しい料理がたくさん出てきたのでとても美味しく食べる事が出来ました。下の写真は実際の機内食の写真です。



2つ目は、デンマークの交通機関についてです。日本では主にみんな車や電車などを利用することが多いですが、デンマークでは車を利用する人より自転車を利用する人がとても多かったです。外を歩いていても周りを見ればどこでも自転車が走っていた記憶があります。特にコペンハーゲン中央駅前に置いてある自転車の数を初めてみたときの衝撃は今も忘れません。デンマークで自転車を利用する人が多いのは、デンマークは山などがとても少なく全体的に平らな地形であるから自転車のほうを利用する人が多いそうです。下の写真は実際のコペンハーゲン中央駅前に置いてあった自転車の写真です。



車や電車を利用する人よりも自転車を利用する人のほうが多いのは日本ではありえないことなので、そういうところからも日本とデンマークの異文化を感じる事が出来ました。

3つ目はホストファミリーについてです。

ホストファミリーにあったのは2日目の午後、リング駅で会いました。そこにいたのは同い年の男の子とそのお母さんがいました。会うときはとても緊張したけれどホストファミリーの人たちの方から積極的に話しかけてくれるのでとても接しやすかったです。ホストファミリーの家に着くと、家からお父さんと1つ下の妹と弟の3人が歓迎してくれました。ルームツアーをしてくれたり、あらかじめ用意してくれていた果物も食べさせてくれました。最初はやっぱり初対面なだけあって距離を縮めるのは少し大変だったけれど、あることをしたことで一瞬で距離が縮まりました。それはお土産です。家に泊めてくれたお礼として日本のお土産をたくさん渡しました。ホストファミリーのみんながとても喜んでくれました。

お菓子やおもちゃ、扇子やうちわなど、たくさんの物を渡しました。右の写真は実際のホストファミリーの写真です。お土産としてあげたお祭り用のはっぴを家族みんなで着ている写真です。とても微笑ましい写真ですね。このお土産を渡したことでホストファミリーとの距離が一気に縮まった感じがしました。特にホストファミリーのみんなが気に入ってくれたのは抹茶味のキットカットと、紙風船、けん玉の3つでした。



ホストファミリーのみんなにお土産を渡す前まではみんなスマホを見ていたり、テレビでユーチューブを見ていたりしていたけれど、お土産を渡した次の日から、子どもたちみんなおもちゃに夢中になってたくさん遊んでいました。とても嬉しかったです。ホストファミリーの家に泊まる最終日になったときにはサプライズでホストファミリーのみんなからたくさんのプレゼントをもらいました。下の写真はホストファミリーの人からプレゼントを貰ったときの写真です。



見て分かる通りたくさんプレゼントを貰いました。とても嬉しかったし、プレゼントの量にはとても驚かされました。最初は上手く過ごせるか不安だったホストファミリーとの生活。終わってみると逆に上手くいきすぎて、「もう終わりか」という寂しい思いが勝ちました。

4つ目はレゴランドについてです。

みなさんはレゴの発祥の地がデンマークだということをご存知でしょうか。デンマークと言えばレゴ。レゴと言えばデンマーク。と言っても過言ではありません。それぐらい有名なレゴ発祥の地、いわ

ゆる本場のレゴランドに行ってきました。レゴランドにはとても多くの人がありました。レゴランドに入ると、レゴで作られた小さい建物などがたくさんありました。



まず初めに向かったのがジェットコースターでした。でも僕は高所恐怖症なのでジェットコースターには乗らず、みんなが乗り終わるのを待っていました。その後には、水の中をボートに乗って移動する遊具に乗りました。とても楽しかったです。その後は、お化け屋敷に行ったり、円の中に入って、上まで連れて行かれる遊具などにも乗りました。右の写真は円の中に入って、上まで連れて行かれたときに上から撮ったレゴランドの写真です。



写真で見てもわかるくらいとても広い場所でした。その後には、家族のみんなにお土産としてレゴランドの人形を買いました。その人形は6000円ぐらいしました。とても人形にしては高く、買おうか迷ったけどお金を余すくらいなら使ったほうが良いと親に言われたので思い切って買ってみました。次にずっと外を歩いていて暑かったので、出店で売っていた、オレオのアイスを買いました。デンマークのアイスは食べたことなかったけど、味は変わらずとても美味しかったです。右の写真が実際に出店で買ったオレオのアイスクリームです。上に乗っているオレオの割合とバニラアイスクリームの割合が全然合っていないくて、最後らへんは普通のバニラアイスだけを食べていたのを鮮明に覚えています。とても楽しい思い出になりました。



最後はチボリ公園についてです。チボリ公園はデンマークのコペンハーゲンにある世界最古のテーマパークとして知られています。そこにはとても怖いジェットコースターがあると聞いていたので、初めはそんなに行きたくなかったのですが、実際に行ってみるととてもいろんな遊具があって楽しかったです。中には空中ブランコと言って、ブランコに乗ったまま、高さ約80メートルの高さまで連れ

て行かれます。いくら安全ベルトはしているといっても、流石に見ただけでも怖いとわかったので乗りませんでした。僕が乗った中で一番楽しかったアトラクションはトロッコに乗って山を登ったり、下



ったりするアトラクションでした。簡単に言うと小さいジェットコースターみたいなものです。高さもそんなになく、落ちるときの爽快感を感じることができるのでとても楽しかったです。たくさん遊具に乗っているうちにお腹が空いてきたので、レゴランドと同じように出店で売っていたホットドッグを買いました。左の写真は実際に買ったホットドッグの写真です。いろいろな具がトッピングされていて美味しかったです。

そのあとにしばらく遊んでいると、約束の集合時間の6時に近づいてきました。とても楽しかったので、ダメ元で、団長に集合時間延長をお願いしたところ8時まで集合時間を延長してくれました。とても嬉しかったです。でも、やっぱり楽しくて夢中で遊んでいると時間の進みが早く感じてきます。少ししか遊んでいないはずなのに、もう8時近くなってきました。そこで一緒に研修に行っていた子が「最後にみんなでジェットコースターに乗ろうよ」という提案をしてきました。みんなはもちろん賛成していましたが、僕はあまり乗りたくありませんでした。しかし、デンマークのチボリ公園のジェットコースターに乗るチャンスはこの先生きててもう1回もないかもしれません。ここで僕だけが乗らなかったら場の雰囲気壊してしまうなどいろんなことを考えました。そこで僕は勇気を振り絞って乗るという選択肢を選びました。そうは言ったものの、僕が高所恐怖症なのに変わりはなく、ずっと心臓がバクバクしていました。実際に僕の番が来て乗りました。怖くて声すら出せませんでした。でも終わってみると思ったよりも怖くありませんでした。そこで調子に乗ってもう一度みんなと一緒にジェットコースターに乗りました。全く怖くないわけではありませんが、1回目のときよりも明らかに「楽しい」という感情が心のどこかにはありました。僕は今まで13年間生きてて、子供用のジェットコースターには乗ったことがあるものの、普通のジェットコースターには1回も乗ったことがありませんでした。しかし、勇気を振り絞ってみると、初めて普通のジェットコースターに乗ることが出来ました。これは「頑張っって勇気を振り絞って乗るといふ決断をした自分」、そして「精一杯励ましてくれて、乗ろうと誘ってくれたみんなのおかげ」で1つ成長することが出来ました。

8泊9日間のデンマーク研修、一言で表すと「楽しい」でした。行く前は「上手に話せるかな」、「ホストファミリーの人たちは優しいかな」、「デンマークのご飯は美味しいのかな」など数え切れないくらいの疑問を抱えていました。しかしいざ終わってみると全てが上手くいって、最終的には楽しいという感情を持つことが出来ました。おまけには1回も乗ったことがないジェットコースターに乗ることが出来たりと個人でも成長した点がいくつかありました。この研修で学んだことをなにかしらで将来に活かしていき、またデンマークに限らず外国に行ける機会があったらぜひ、積極的に参加してみようと思いました。

## 人生最高の体験

登別市立緑陽中学校 1年生 高屋敷 幸也

5日間のホームステイ。この言葉を聞いて僕はこう感じた。「初対面のデンマーク人と5日間一緒に暮らすなんて不安だ。ホテルにずっと泊まっていたい」と。ホームステイをする前はそんな不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、ホームステイが始まった瞬間、そんな不安は一瞬にして吹き飛んだ。

駅でお出迎えをしてもらい、家についた時は温かく歓迎してくれた。そして、ホストファミリーにお土産を渡して一気に距離が縮まった。夕食の際は、パーティーのような美味しい食事を作ってくれ、食事中は僕に沢山質問などをして話しかけてくれた。そして夕食が終わった後はホストファミリーや近所にいた派遣団の一員と一緒に家の前にあったトランポリンで遊んだ。そして、翌日の夜はホストファミリーと一緒にテレビで映画鑑賞を楽しんだりした。デンマークに行く前はホームステイがそんなに楽しいものだとは思わなかった。しかし、ホームステイが終わる頃にはデンマークで一番楽しかったと言っても過言ではないほど、楽しいと感じるようになっていた。こんな素晴らしい貴重な体験をすることができて本当に良かったと思う。



また、行き帰りのフライトもとても印象に残っている。機内で一番楽しかったのはやはり機内食である。行きの食事はペンネや野菜にソースをかけた料理、帰りはチキンとジャガイモの炒め物を食べた。また、軽食に出てきた韓国風のサンドイッチもスウィートでとても美味しかった。機内での暇な時間はゲームをして過ごしていた。その名もテトリス。最初は大きくて興味がなかったのだが実際にプレイしてみると、その面白さにすっかりはまって気がつく頃には2時間以上プレイしていた。フライト



中は何をするのもありだ。ゲームプレイ、映画鑑賞をするのもよし。寝るのもよし。お菓子を食べるのもよし。この何をしてもいいという自由感が長時間フライトの魅力だと感じた。

また、デンマークの街並みの美しさも心に残っている。一日目、コペンハーゲン中央駅についてからホテルに向かう最中に見た初めてのデンマークの街並みには度肝を抜かれた。白、茶色、黄色のカラフルな外壁、美しい建物がきれいに並ぶことで作り出される見事なストリートの景色。「美しくすぎる。」ただこの言葉だけが脳内に溢れていた。この街並みはまるでおとぎのような世界だった。きっとデンマーク人はこの風景に慣れているのだろう。しかし、初めてデンマークに来た僕の心は興奮と驚きでいっぱいだった。そして、「こんな素晴らしい街並みが日本にもあればいいな。」と、感じた。



そして、ホストファミリーや 7 学年の人達と英語で交流したことも初めての新鮮な体験だった。初めて公の場で使った英語。多くの言葉は通じ、スムーズに会話ができた。でも、うまく英語が話せないときや聞き取れないことも多々あった。だが、たとえ僕が英語がわからなくても現地の人々は焦ることなく、とても丁寧に、そしてとても優しく教えてくれたり、待ってくれたりした。通じたことも通じなかったことも含めて、初めて人と英語で会話するという体験は通じた時に達成感や喜びを感じることができるとも面白いものだと感じた。そしてもっと英語を勉強し、また海外の人と英語で交流してみたいと感じた。



デンマークから日本に帰ってきてからはデンマークの楽しい日々が終わってしまって悲しいという絶望感と、デンマークに戻りたいという気持ちでいっぱいだった。それだけデンマークが自分自身にとって素晴らしい体験だったということだ。今回のこの体験は人生で一番楽しかったと言ってもいいくらい刺激的で、新鮮で、感動的なものだった。また、異国の文化に触れることで自分自身の常識と価値観が大きく変わった。僕は、今回のこのデンマーク事業を通してとても素晴らしいものを得ることができた。そしてまたいつか海外に行ってみたい。そう強く思う。

## デンマークに行った感想

登別市立緑陽中学校 1学年 宮崎 将宗

### 1.現地の人々

実際に現地に9日間いて感じたのが「現地の人達の距離はそこまで近くない」前のイメージで外国の人たちは赤の他人でもワイワイ賑やかなイメージがあったが、実際に行ってみるとそこまで人と人の距離が近くなく、イメージしていたよりも穏やかで日本より少し他人と話す場面が多い気がした。

例えばビーチに行ったときのホストファミリーと過ごす時間でミニゴルフというものをやっていた。その時にボールが明後日の方向に飛んでいってしまったが、いかにも怒りそうなおじいさんがめっちゃくちゃやさしくボールを渡してくれて、アドバイスもしてくれてびっくりした。やっぱりデンマーク人は優しかった。

実際に電車の中でのことを思い出してみると少し丁寧な感じがした。デンマーク人は人との適切な距離がわかっているから初めてあったとしても話しやすく、他の人の迷惑にならないように常に周りのことを考えているように感じた。もしかしたら日本人よりも周りのことを考えているかもしれない。



### 2.Egeskov 城

Egeskov 城の中はいかにも中世ヨーロッパ感を感じた。特に鎧や毛皮、シャンデリアがある部屋がたくさんあり、外見よりも中は広く感じた。外には車が色々飾ってあったり、遊具がたくさんあったが実は遊具よりも Egeskov 城の中を見学するほうがワクワクして楽しかった。Egeskov 城の外にはお土産屋さんがあり棚の商品を落とし



てしまったのも覚えている。

Egeskov 城では行動できる範囲が狭かったが屋根が高かったり、いろいろなものがおいていて体感的には飽きなく、広く感じた。特に屋根裏、縦は大人1人やっと入れるくらいだけど、展示物があったり、少し吹き抜けっぽくなっていておしゃれで広く感じた。けれど屋上に行く前の銃が飾ってあるコーナーでは自分でも少しかがまないと入れないくらいで、少し船みたいだった。



### 3.チボリ公園

チボリ公園では色々なアトラクションがありずっとジェットコースターに乗っていた。ジェットコースターでの思い出は一回転するジェットコースターに乗っていてスマホがポケットに入っていることに気づき、一回転中もスマホを握っていた。まゝ逆に楽しかったかな。次にトロッコに乗るジェットコースターではとてつもなく上下に動くが、バーがゆるすぎて椅子から離れていた記憶がある。ブレーキなどを手動で行っているおじさんがマスコットみたいでかわいかった。チボリ公園といえはの空中ブ

ランコ。空中ブランコは高さ 80m で、実際に乗ってみるとコペンハーゲンの町並みを一望できそうなくらいで、ちょうど夕日が見えて綺麗すぎた。体感はそこまで速いイメージはなくて怖くはなかった。チボリ公園で飲み物を買うときにコップがもらえるがそのコップを自動販売機みたいなものに入れることで5DDK もらえるという仕組みは最高だった。日本の遊園地にもこういう仕組みを追加したらゴミのポイ捨てが減るから、作業員の負担も減るからいいと思った。そのコップは最終的にどうなっているのか気になった。捨てられているのか再利用されているのか。最後チボリ公園の出口に行こうとしているときに他の人達が孔雀を見つけたいらしい、見たかった。



#### 4. レゴランド

レゴランドではジェットコースターに 2 つ、アトラクション系お化け屋敷に行った。レゴランドは人が多く、一つ一つのアトラクションに並ぶときに時間がかかりすぎて 3 つしか乗れなかった。並ぶのの一つ 25 ~ 45 分程度並んでいて暇だった。レゴランドのジェットコースターではスマホを持っていくことはなかったが、安全ベルトがゆるすぎて危険な感じがした。

#### 5. ホストファミリーと

ホストファミリーに泊めてもらっている間に一緒にゲームをしたり、庭のトランポリンで遊んだ。ちなみにホストファミリーとフレンドになれた、そして連絡先も手に入れることができた。他にもホストファミリーのお父さんがサッカーの観戦に連れて行ってくれた。そのチームはホストファミリーのおじいさんがもともとチームの選手だったらしい。

実際にそのおじいさんとホストファミリーの叔父さんに会った。おじいさんと叔父さんは優しく話しかけてくれた。最後まで試合を見れなかったが、現地の盛り上がりなどを体感することができて嬉しかった。他にも朝早めに起きてしまって暇だったときも朝の散歩に誘ってくれた。その散歩で川に行き、川にいるカモにパンをあげた。帰ってきてからはトランポリンで遊んでくれた。できることならもう一度行きたい。

## 感想文

登別市立緑陽中学校 2年生 山内 陽斗

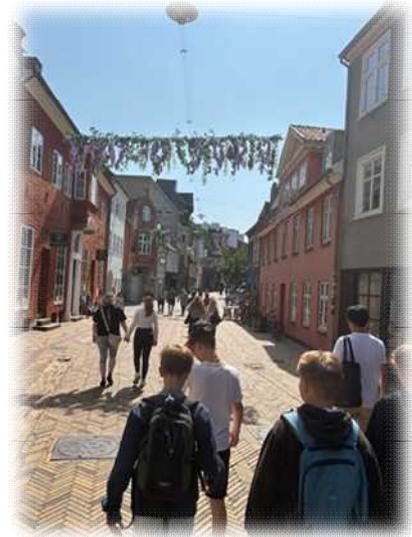
8月7日 1日目

朝、新千歳空港から羽田空港へ行った。羽田は空港によくある動く床がとても長くて楽しかった。次に羽田からコペンハーゲン空港まで行った。13時間のフライトで、暇になるかなと思っていたが、オンライン対戦できるテトリス、映画などを見ていたら一瞬で到着していた。初めての機内食はとても美味しかったし、海外っぽい食べ物を食べれて嬉しかった。デンマークの町並みは日本とは全然違い、ほとんどの建物がレンガでできていて、とてもおしゃれだった。初日からあと1ヶ月くらいデンマークにいたいと思った。晩御飯を買いにスーパーに行ったが、初めて見る美味しそうな食べ物がいっぱいあった。プリングルスを買ったが日本とは味がぜんぜん違い美味しかった。



8月8日 2日目

朝起きてホテルで朝ごはんを食べた。いろいろな種類のパンやベーコン、ハムなど海外っぽい朝ごはんが美味しかった。その次に電車でオーデンセへ向かった。そこでアネさんと7年生と合流し、オーデンセ市内のアンデルセンという童話作者の足跡をたどって博物館や石像を見た。移動中の町並みが綺麗すぎて感動した。ほんとにあと1ヶ月いたいと思った。オーデンセ市の観光が終わったら電車でリング駅まで行き、ホストファミリーの方と合流した。みんなとても優しくて何よりご飯がめっちゃ美味しかった！デンマークは日本より寝る時間が長くて、スッキリ寝れた。



8月9日 3日目

スベンボーで7年生の人と買い物をした。すごい都会って感じでいろんなお店があった。よく見る傘がたくさん吊るされてるところがあってめっちゃ綺麗だった。ほんとにいい景色のところがいっぱいあって嬉しかった。買い物が終わったら海に行った。海の横にアイスクリーム屋さんや公園があってバニラのアイスを食べた。日本のバニラよりねっとりしてて美味しかった。ホストファミリーの方が



カニ釣りをさせてくれて、めっちゃ大きいのがたくさん釣れた。家に帰ってそれを食べたが、思ったより美味しかった。

8月10日 4日目

マリパークのモチーフとなったイーエスコウに行った。お城の周りに大きい公園があって特にめっちゃ長いターザンロープとゴーカートが楽しかった。お城の中はすごい豪邸って感じで、マリパークと似てた。そこのお土産屋さんでいろいろなものを買えてよかった。家に帰って近くの池で釣りをした。何もつれなかったがとても楽しかった。晩御飯で出たブラウソースをジャガイモにつけて食べたものが、今まで食べたものの中で1番を争うくらい美味しかった。スッキリ寝れた。



8月11日 5日目

ファボームッドフン市の市役所を訪問した。とても緊張したが、なぜ自転車が多いのか知れたし、FAXE KONDIというデンマークのジュースも飲んで嬉しかった。その後、色んなところを歩き、スーパーに行った。そこでデンマークに来て久しぶりに The 肉みたいなものを食べれて嬉しかった。その後、始業ピクニックに参加した。ホストファミリーのお母さんが中国の方なので餃子を作ってくれ、それがとても美味しかった。

8月12日 6日目

朝まずプレゼンテーションをしてからレゴランドへ向かった。緊張したが、ゆっくりハキハキ喋れてたと思う。レゴランドに着いたら、まずジェットコースターに乗ったが怖すぎて怖すぎてやばかった。ほんとに怖かった。その後、お化け屋敷に入ったらそこにもアトラクションがあってめっちゃ怖かった。心臓止まるかと思った。けどめっちゃ楽しかったし、お土産も買えたから良かった。学校に帰ってきたらお別れパーティーをした。うどんも上手に作れたし、踊りも歌も上手に出来たと思う。明日でお別れなんてありえないくらい楽しかったし早く過ぎたホームステイだった。



8月13日 7日目

ホームステイが終わるのはとても悲しいけど、楽しかったし、色んなことを学べた。電車が出るギリギリで現地の人と連絡先交換できて良かった。電車に乗ってる時に学校に筆箱を忘れたことに気づ

いた。電車でコペンハーゲンに戻ってきたら日本語を勉強している大学生の方に案内をしてもらい、ニューハウンというとても有名で美しいところや、兵隊の行進も見れた。ニューハウンはテレビで見たことがあったので実際に行けてとても綺麗だった。観光が終わったらチボリ公園という遊園地に行った。最初はビビってそんなに怖くなさそうなのに乗っていたが、結局は最後にみんなでジェットコースターに乗った。あそこでジェットコースターに乗っというよかったと思う。そんな怖くなかったし、めっちゃ楽しかった。特にチボリ公園のトロッコがいちばん楽しかった。明日デンマークを離れるのが悲しすぎる。

けどめっちゃスッキリ寝れた。

8月14日 8日目

デンマーク最終日。悲しすぎる。最後のデンマークの食事はホテルの朝食。たくさん美味しいものを食べた。ほんとにあと1ヶ月はデンマークにいたい。けどこの時はめっちゃ唐揚げが食べたかった。飛行機に乗ったらすぐに日本に着いた。日本語が沢山聞こえてきて嬉しかった。

全体の感想

ほんとに楽しすぎて一瞬で過ぎちゃった。特にチボリ公園が一番楽しかった。英語のネイティブな会話も、デンマークのスポーツのことなど沢山のことを学べた。

DK 🍷 ベスト・オブ・デンマーク 🍷 DK

食事 ジャガイモブラウンソース！

景観 ニューハウン！

思い出 ホストファミリーの人と釣りに行ったこと！



## 日本を離れた9日間

登別市立緑陽中学校 3年生 及川 諭愛

デンマークはノルウェーとドイツの間に位置する島国で、美しい町並みと豊かな自然をもち、アンデルセン童話の作者、アンデルセンの出生国でもあります。私達はデンマークに行って、人生に二度とない素敵な体験を多くすることができました。

羽田空港から飛行機が飛び立ったときにはすこし寂しさが残りましたが、13時間という初めての長時間のフライトはとても楽しかったです。たまたま窓側の席だったので、北極周辺の雪景色も満喫することができました。他にも、映画を見たり通信をしてウノをしたりすることもでき、機内食も初めて食べました。



長時間のフライトが終わって、コペンハーゲンにたどり着いたときの興奮は忘れられません。空港も駅もとても広く、おしゃれなデザインで行き交う人々も金髪や青い目の外国人だったので本当に映画のような空間でした。

後日、コペンハーゲンの観光をしたときも人魚姫の像やアマリエンボー宮殿、ニューハウンの景色に圧倒されました。日本にはない「西洋の雰囲気」がすごかったです。



リングでのホームステイでは、私はお母さんがふたりで、娘が3人いる家に滞在させてもらいました。黒と白の犬もいて、とても可愛かったです。庭も家もとても広く、立派なトランポリンもありました。

日本のお土産として渡したお菓子を食べ比べたり、折り紙を教えたり、一緒におにぎりを



作ったりしました。デンマークのボードゲームで遊んだりもしました。



登別市と長年交流があるリングフリー校にも行きました。

校舎は3つぐらいに分かれていて、公園みたいな遊具も置かれていました。体育館もすごく立派で両サイドにベンチがあったり、奥にはトランポリンをする部屋もありました。

始業式のピクニックにも参加させてもらって、体をつかうカードゲームをしました。

また、ホームステイを引き受けてくれた方々とリングフリー校の七年生の子達と海やアンデルセン博物館など様々なところに行きました。特にイーエスコウ城とレゴランドは印象に残っています。

イーエスコウ城はマリパークのニクス城にはない風格があり、その城を囲む湖も綺麗でした。中では、当時の部屋が再現されていたり城のミニチュアがありました。再現されていた部屋は、どれも豪華ですこし生活感が残っていました。イーエスコウ城の敷地はとても広くて、噴水や難しい芝生迷路のほか、バイクや自動車の博物館もありました。

ドラキュラについての展示品もあって、ホームステイ先のアルマと一緒に行きましたが、暗くていきなりでかい音声があったのですごくびびりました。

この日は天気も良くて、きれいな写真をたくさん撮ることもできました。



そしてレゴランドは、あちこちが LEGO のようなデザインになっていて可愛かったです。アトラクションもいろいろあって、ジェットコースターはかなりヤバそうだったので乗りませんでした。アルマのおすすめのものにひたすら乗って行きました。LEGO お化け屋敷や忍者を倒すアトラクションなどレゴランドでしか楽しめないものがたくさんありました。お土産屋も可愛く、見ているだけで楽しかったです。値段は可愛くありませんでした。



最後に派遣団で遊びまくった「チボリ公園」も楽しかったです。

世界最古のテーマパークと聞きましたがそんなことはなく、とても綺麗でアトラクションも楽しいものばかりでした。絶叫系が多く、高さ80mの空中ブランコや60mから落ちるフリーフォールにも乗りました。空中ブランコは最初は高くて怖かったです、コペンハーゲンを見渡すことができ良かったです。フリーフォールは内臓がでてくるかというくらい気圧がすごかったです。ジェットコースターも何種類もあって飽きることがありませんでした。

それくらいアトラクションが豊富で楽しすぎたので、みんなで団長と斎藤先生に頼み込んで時間を延長してもらいました。

帰るときにレアな孔雀も見ることができました。

デンマークに行って本当に良かったです。

去年に妹が行って楽しそうだったので私も今年応募しましたが、デンマークという国について知っていることが少なく、コミュニケーションもちゃんととることができるか不安でした。しかし、デンマークは思っていた以上に魅力が豊富でデンマーク人もみんな優しいので安心して過ごすことができました。

ホストファミリーやリングフリー校の子とスナップチャットを交換することができたので、これからもお互いに連絡を取り合っていきたいです。

いつかまたデンマークに行って、リングを案内して下さったアネさんやホストファミリーに会いたいです。そして、この貴重な経験を忘れないでこれからも過ごしていきたいと思います。



## デンマークの思い出！

登別市立緑陽中学校 3 年生 中村 柊里

私はデンマークに行ってたくさんの食べ物、文化について学びました。怖かったこと、楽しかったことなどたくさんの思い出を作れました！楽しかったことは 4 つ、怖かったことは 1 つあります！

まず楽しかったことの 1 つ目はレゴランドです。レゴランドはめちゃくちゃ人がいて大変でアトラクションに乗るのに時間かかりました。だけどジェットコースターがめちゃくちゃ楽しかったです！

2 つ目はホームステイです。知らない人の家に泊まるのは初めてでめちゃくちゃ緊張したけど、ホストファミリーは温かく迎えてくれたり一緒に遊んでくれて嬉しかったですし楽しかったです！

3 つ目は、チボリ公園です。具合が悪くなり最初は全然みんなと行動できなかったけど、その後段々と体調が良くなってみんなと合流出来て嬉しかったです！その後色々な乗り物に乗ったりしてめちゃくちゃ楽しかったです。ジェットコースターに 4 回ぐらい乗ってる人がいてめちゃくちゃ驚いたけど、乗ってみたら楽しかったしみんなの仲が大きくなって良かったです！

4 つ目はお化け屋敷です。最初女子たちと行って何が起こるか分からないまま行くと、めちゃくちゃ怖くて私以外の女子は全員逃げていたけど私だけ逃げていなくてめちゃくちゃびっくりしました！でもめちゃくちゃ楽しくて良かったです！

怖かったことは、チボリ公園のジェットコースターです。レバーが弱くて落ちそうになったりいきなり立ちそうになったりしてめちゃくちゃ怖かったけど乗れて良かったです！一回転するのもあってそっちの方が怖いのかなーと思ったけど、レバーがゆるい方が怖かったです！

今回の派遣を通して怖かったことや楽しかったことがあって良かったです！中には体調崩した時もあったけどめちゃくちゃ大変だったけど、みんなと楽しめることができたり勉強になったところとかもあるので学んだことを活かして頑張っていきたいです。日本でもデンマークの暮らしなどをしてみたいと思いました！

## デンマークへ行った感想

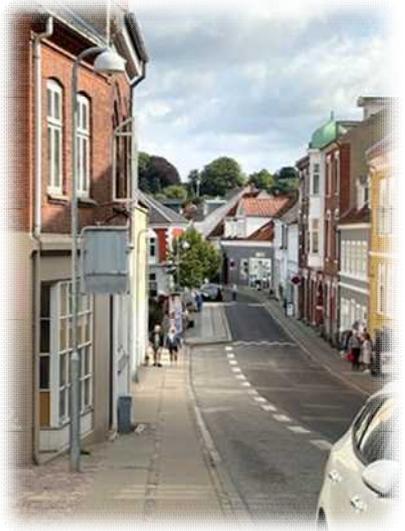
登別市立西陵中学校 2年生 戒野 義文



デンマークに行ったときは、電車に乗ってオーデンセに行っているなどを見て回りました。目的地についたらデンマークの人たちと一緒に見て回りました。次にホームステイの家に行きました。会話が英語なので聞き取れないところもあったけど頑張って聞き取ることができました。ホームステイのマーティンさんが日本語を練習していてすごかったです。

三日目は、ハンスさんがREMA1000というお店に行っているいろいろお買い物しました。

朝食は買ったものを食べました。次はリングゲ町のところでいろんなところを歩いて色々見ました。港や何かの教会みたいなのを見ました。登別と全然違って楽しかったです。その後は、塔みたいところに登りました。すごく高くて見晴らしも良かったです。次にビーチに行って遊びました。そこでみんなでかにを取りました。生き物が苦手な人がかにを釣って叫んでいたのが面白かったです。釣るところが通路になって狭いので何人が落ちていました。遊び終わったら家に帰りました。家にいたとき九時でも明るくてびっくりしました。



四日目はイーエスコウ城に行きました。デンマークの生徒たちと一緒にいろんなもので遊んだりしました。イーエスコウ城の中は、とても広かったです。帰ったらゆきやと一緒にトランポリンで遊びました。とても楽しかったです。

五日目は学校に行きました。学校は1階建てで面積が広かったです。次に高校に行きました。楽器とかもあって弾いてみたかったです。次は、教会に行っているなどを見ました。先生や友達が裁判を起こす



ような場所で楽しんでました。次に学校に戻ってみんなでパーティーをしました。帰ったらホームステイのマーティンさんと一緒に LEGO のゲームで遊びました。とても楽しかったです。

六日目は、レゴランドに行っていっぱい遊びました。どれもこれも全部が LEGO でできていてすごかったです。どんなところでもすごい行列があってびっくりしました。普通のレゴで作られた町があって作るの大変そうだなって思いました。ジェットコースターや急流滑り、お化け屋敷、展望台みたいなものに乗りました。そのあとはお土産コーナーに行って友達誕生日プレゼントを買いました。四、五時間いたのが一瞬で終わってびっくりしました。帰ったら学校に戻って日本から持ってきたうどんをデンマークの人に食べさせました。うどん以外にも準備されていたものをいっぱい食べました。ポテサラとカレーが美味しかったです。

七日目は、最後のお別れでデンマークの生徒たちがたくさんいて手を振ってお見送りしてくれました。泊まるホテルについたら、その近くの有名なところを見ました。最後に行ったチボリ公園が一番楽しかったです。一番怖いジェットコースターに四回も乗りました。八時までみんなで遊んで楽しかったです。

初めて海外に行ったので英語でコミュニケーションがとれるかどうか心配だったけど、事前研修で英語を頑張ったのでうまく話すことができました。また同じような事があつたら参加したいです。

これで終わります。



## たくさんの思い出ができたデンマーク

北海道登別明日中等教育学校 3回生 大槻 樹音

私は今回の研修を通して、デンマークと日本の文化の違いを実際に体験することができ、たくさんのことを学びました。もともと北欧に興味や憧れがあり、この派遣でデンマークに行けてとても嬉しかったです。そして、もう一度デンマークに行きたいと感じるほど素敵な体験をしました。

まず、デンマークに着いて印象的だったのは野菜や果物の食べ方です。最初にそれを感じたのはコペンハーゲンでホテルへ向かうときです。道を歩いていたところ、ニンジンが袋からまるかじりしている現地の人とすれ違いました。通りを歩きながら生のニンジンにかぶりつくなんて日本ではあまり見かけないので本当に驚きました。それから、ホストファミリーが作ってくれるランチやディナーでも生野菜や果物がそのまま食卓に上がることも多く、文化の違いを感じました。例えばりんごがそのままランチに入っている派遣団員も数人いて、もしかすると皮や芯を切り取って食べる日本人は繊細なのではないかと思われました。これは私の中の価値観を変える大きな出来事となりました。新たな世界を知れたような気がします。

また、デンマークでの体験の中で忘れられないのは、リングフリースクールとの交流です。ホストファミリーと対面する日の午前中には、リングへ向かう前にフリースクールの7年生と一緒にオーデンセを観光しました。そこでまず驚いたのは、デンマークの日差しの強さです。日本とは比べものにならないほどまぶしく太陽がジリジリと照りつけますが、風は冷たいため、日向は暑いのに日陰は涼しいという不思議な感覚でした。

その日はアンデルセン博物館やサンドイッチ店を訪れましたが、観光の間には私のホストファミリーとなる予定の7年生の子とあまり話せませんでした。そのため、リングへ向かう電車の中で仲良くなれるのかどうか、とても不安な気持ちでした。しかし、実際に関わってみると、とても優しい子で、ボードゲームやアクセサリー作り、トランポリンなどで毎日一緒に遊ぶことができ、とても楽しい時間を過ごしました。そこで気づいたのは、デンマークの家には庭にトランポリンがあるのが一般的だということです。さらに、家だけでなく、ビーチやイーエスコウ城などにもトランポリンがあり、派遣団員のみんなで大いに楽しみました。日本ではできない貴重な経験でした。





そして、リングで過ごす最後の日にはレゴランドに行き、夕方にはお別れパーティーをしました。この日はリングで一番印象に残る日だったと思います。レゴランドではジェットコースターに乗ったり、お土産を買ったりしました。特にジェットコースターに並んでいる時間は一緒に行動していたフリースクールの子たちとよく話すことができて楽しかったです。日本語やデンマーク語でそれぞれが1から10までの数の数え方を教え合ったり、発音よく名前を呼ぶことに挑戦したりと笑顔が絶えない待ち時間になりました。

リングを出発する朝、一緒に過ごした時間を思い返すと、お別れがとても寂しく感じられました。初めは少し距離のあったホストファミリーの Luna とも、トランポリンの上でそれぞれの言語を教え合った日から、心の距離が近づいたように思います。日本に帰ってきた今でも、Luna からもらったキツネのぬいぐるみを大切にしています。いつかもう一度会いたいです。

私はこの派遣事業を通して、人の温かさを感じ、異国での生活について知りました。見学に行ったパブリックスクールで声をかけてもらったことや、日本は違うところばかりの生活のどれもが貴重なものでした。ともに派遣事業に参加した仲間たちとも出会うことができ良かったです。これからの生き方において、この経験を大切にしていきたいです。

# 引率者報告書



デンマーク王国にて

## 令和7年度 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長： 登別市保健福祉部健康推進グループ

主査 小野 恭平

### 【1日目 8月7日(木)】

#### 集合～羽田空港

午前5時、まだ薄暗い時間に登別市役所に集合した。今夏の暑さは厳しく、この日の朝も例外なく暑かった。到着した団員たちは眠そうにしていたが、皆リラックスした様子だった。最低限の持ち物チェックを終え、たくさんの保護者や先生、市職員が見守る中、義文の「ってきます」の挨拶で市バスに乗り込み、新千歳空港に向けて出発した。

バスの中でも団員たちは楽しそうにしていたが、空港が近付いてくるとしだいに緊張感が高まっていた。そんな中、企画調整グループの職員が空港まで見送りに来てくれたのを見つけ、団員たちは安堵した様子だった。搭乗手続きはスムーズに進み、まずは羽田空港へ向かった。座席はバラバラで団員たちの様子は見えなかったが、飛行機は予定通り発着した。

飛行機を降り、到着した第2ターミナルから第3ターミナルに向かうためバスに乗った。バスに乗る際、一旦外に出たが東京は暑かった。30分ほどで第3ターミナルに着くと、外国人の姿が多くなった。入国審査はパスポートの顔認証で、こちらも問題なく通過することができた。出発ゲートを確認してから少しの間自由時間とし、団員たちは飲み物やおにぎりを購入していた。搭乗口前には外国人がたくさんいたのだが、団員たちが積極的に英語で話しかけているのを見て、非常に感心したのを覚えている。コペンハーゲン行きの飛行機は全員が近くの席で、みんな安心した様子で嬉しそうだった。機内では映画を観たり寝たり、テトリスをしたりと終始リラックスしている様子ではあったが、やはり13時間のフライトはタフだった。カムチャッカ半島の大地震の影響で航路はグリーンランド経由だったため、途中美しい景色を撮影することができた。機内食も皆美味しそうに食べていたし、実際に美味しかった。

#### デンマーク到着

到着すると、日本とは違う雰囲気、長時間のフライトから解放された団員達のテンションは最高潮だった。私もポケットWi-Fiを繋ぎ、団員の保護者に到着を報告することができた。写真を撮りながら空港内を進み、スーツケースを受け取るところで現地ガイドの大西さんと合流した。スーツケースを受け取り、大西さんから街を歩く際の注意事項を聞いた後、電車でコペンハーゲン空港駅からコペ



ンハーゲン中央駅へ向かうことにした。乗車券は帰りの分も含めて大西さんがまとめて購入してくれた。駅や電車も日本とは異なり、自転車ごと中に入れるようになっていた。デンマークは夏休み中のため、今日はそこまで混んでいないと説明があった。コペンハーゲン中央駅に到着すると、より一層異文化情緒溢れる雰囲気がい我々を歓迎してくれた。日本時間では日付が変わる遅い時間、そして重い荷物を運びながらではあったが、団員達は目を輝かせて写真を撮りながらホテルへ向かった。

ホテル到着後、大西さんがチェックインの手続きをしてくれた。空港からホテルまで大西さんがいてくれてとても心強かった。ホテルに到着したのは現地時間で夜8時、日本時間では深夜3時だったが、みんなお腹が空いたということで部屋に荷物を置き、隣のスーパーへ買い物に行くことにした。店内には日本ではあまり見ることのない商品が並んでいて、説明もデンマーク語だったため何なのかわからない物もあった。各自お菓子や飲み物を購入するためセルフレジへ向かったが、これがなかなか難しく団員達は皆苦戦していた。ただ、私たち以外の人達も次々と店員を呼んでいたため、機器の問題もあったのかもしれない。なお、デンマークではキャッシュ化が進んでおり、私はこの旅で一度も現金を使う機会はなかった。買い物後はホテルへ戻り、明日の集合時間を確認し、長かった一日目の行程は終了した。

## 【 2日目 8月8日(金) 】

### コペンハーゲン～オーデンセ

デンマーク2日目。私事ではあるが、誕生日をデンマークで迎えるとは思わなかった。ホテルの朝食は聞いていたとおりデンマークの料理が多く、豪華で美味しかった。団員たちも時間どおり集合し、長旅の疲れを見せず皆元気そうで安心した。今日も大西さんがロビーで待っていてくれて、無事チェックアウトを済ませコペンハーゲン中央駅へ向かった。

駅は改めて見ても造りが美しく、団員たちもたくさん写真を撮っていた。今日向かうオーデンセまでは電車で1時間ほどで、乗車すると私たちの席に他の客が座っていたので、チケットを見せて他の席へ移ってもらった。スーツケースは私と斎藤先生で荷物棚に上げたのだが、これがかなりの重労働だった。車内では景色を見たりスマホをいじったりして時間を潰したが、オーデンセに到着するとホームで出迎えてくれるリングフリー校7回生の姿が目に入り、団員たちは一気に緊張していた。デンマークの国旗を持った7回生の生徒とアネさんが我々を歓迎してくれた。スーツケースをトラックに預け、みんなで駅の中にある JOE & THE JUICE というカフェで昼ご飯を食べた。これから先もそうだが、デンマークの食事はかなりボリュームだった。食後はオーデンセの街を観光した。奇抜な像、美しい街並みや教会、見るもの全てが美しく、煌我は写真を撮り続けていた。また、デンマークの作家であるアンデルセンの足跡が街の至る所に見受けられた。



それから斎藤先生が前回訪れた時は建設中だったアンデルセン美術館に行った。館内はバーチャル映像や音声案内が駆使されていて、近未来的な美術館だった。アンデルセンの生い立ち、みにくいアヒルの子をはじめとした有名な物語の展示、映えるフォトスポットなどがあり、あまり知識のない私でも楽しむことができた。お土産コーナーでは、正宗が早くもたくさんお土産を買っていた。美術館を出て、綺麗な街並みを眺めながら緑豊かな公園を通過し、オーデンセの銅像の前で集合写真を撮った。その後、アンデルセンが昔住んでいた家を訪れた。現在は博物館となっていて、後から作られたという庭にはいろんな植物が咲いていた。博物館を出た後も立派な病院やホテルなどを眺めながら、最初にいたオーデンセ駅に戻ってきた。天気も良くかなり歩いたため、団員たちも少し疲れた様子だった。

### ホストファミリーが待つリングヘ

オーデンセからリングヘに向かう電車に乗り、30分ほどで駅に到着するとたくさんの方がホームで出迎えてくれた。人さらいにあうように次々と団員たちがホストファミリーに連れていかれると聞いていたが、実際には名前を確認しながら優しく迎え入れてくれている様子を見て安心した。私たちのホストファミリー



はまだ到着しておらず少し待つことになったが、程なくして2台の車が到着した。過去にも斎藤先生を受け入れてくれたハンスと息子のピクター、マーティンの3人が迎えにきてくれた。荷物を積んで5分ほど車を走らせ、ハンスの家に到着した。私と斎藤先生、義文がお世話になったのだが、ハンスは義文のために銃や帽子、サングラスなどを準備してくれていて、格好いい写真を撮ることができた。夕食はフレスケスタイというローストポークやブラウンソースのかかったポテトを準備してくれていた。斎藤先生とハンスが英語で話していることは何となくしかわからなかったけど、ハンスは久しぶりに会った斎藤先生と話せてとても嬉しそうだった。食後は庭のテーブルで談笑した。夜は21時を過ぎても明るかったが、気温は低く少し肌寒かった。初めてのホームステイだったが、ハンス一家は私たちを温かく受け入れてくれたのでとても居心地が良く、幸せな気持ちで眠りにつくことができた。

【3日目 8月9日(土)】

### 港町・スベンボー観光

この日は北海道の秋ぐらい肌寒い朝だった。ハンスが準備してくれたのはデンマークの一般的な朝食とのことだったが、とても美味しかった。今日は全てのホストファミリーがスベンボーへ集まることとなっていた。リングヘからスベンボーまでは高速道路を使ったのだが、デンマークの高速道路は最高130km/hまで走ることができるようで、ハンスは130km/hをキープして車を走らせた。

待ち合わせ場所や時間は曖昧だったが、無事みんなと合流できた。団員たちはホストファミリー宅で楽しく過ごしたようだが、1日ぶりに会う日本人に安心した様子が可笑しかった。スベンボアの街並みも美しく、市場には活気があり賑やかだった。私たちハンス一行はなぜか他のホストファミリーと離れ、別行動で教会に行った。外観も内装も美しく、たくさん写真を撮った。また、近くに立派な市役所があり、庁舎の前



で結婚式の写真撮影をしていた。街中を探索しながら、港の方へと向かった。港にはたくさんの船が停まっており、海と空、建物が調和した絶妙な景色に感動した。綺麗な街並みを十分堪能した後、車で移動し見晴らしの良い高い塔へ向かった。塔に着いてから急な階段を登ると、そこは360度見渡す限りの絶景が広がっていた。スベンボアの街を一望できたが、風が強くなりかなりの高さだったので下を見るのは怖かった。

その後はビーチに向かい、そこで団員たちと合流した。海も穏やかで気持ち良く、トランポリンなどの遊具もあり団員たちは楽しそうに遊んでいた。私も裸足になって海に入り、水は少し冷たかったものの気持ち良かった。私と斎藤先生は昼ご飯を食べていなかったのだが、それに気付いた7回生の一人がサンドイッチを分けてくれた。団員たちは桟橋でカニを釣っていて、カニを釣った柊里の叫び声が響き渡っていた。釣ったカニは夜ご飯になったらしい。荷物番をしてくれていた斎藤先生と交代し、ベンチでみんなが遊んでいる様子を眺めていた。小さい蜂が飛んでいたが、それ以外は平和な時間だった。帰りはハンスがパーティーに参加するため先に帰っていたので、他のホストファミリーの車に乗せてもらった。帰り道、コペンハーゲンまでヒッチハイクをしている人がいた。

夜はハンス家の人たちがみんないなくなるので、私たちのためにピザを買っておいてくれた。それを斎藤先生とオープンで焼いて3人で食べた。夜はギターを弾きながら歌を歌ったり楽しく過ごした。22時ぐらいまでハンスたちの帰りを待ったけど、帰ってこなかったので先に眠ることにした。気を遣いすぎないところも心地良さの要因の一つなのかもしれない。

【4日目 8月10日(日)】

#### イーエスコウ城見学

この日は昼からイーエスコウ城を見学する行程となっている。朝、私と斎藤先生と義文の3人で家の周りを散歩した。リングフリー校へ向かうただの通学路なのだが、景色は綺麗で空気も美味しく、毎日学校に行くのが楽しみになるような道だった。リングフリー校には10分ほどで到着し、まだ誰もいない学校を外から見学した。家に帰ってからは今日も美味しい朝食をいただき、私と斎藤先生はハンスとサンドイッチの材料を買いにスーパーへ行った。売っているものは見慣れないものばかりで、

レジではコストコのようにベルトコンベアの上に商品を載せていた。午前中は近くの広場で遊んだりサンドイッチを作ったりして過ごし、昼にイーエスコウ城に向けて出発した。

イーエスコウ城に着くと、その広大な敷地に驚いた。たくさんの遊具や様々な展示物のある建物が自然に囲まれており、立派な城が見つからないほどだった。到着してから1時間半を昼食や自由時間とし、団員たちは7回生の生徒といろんな場所を見て回った。前日よりも団員たちと7回生との距離が近くなっているように感じ、自然と英語やジェスチャーでコミュニケーションを取っている姿に感動した。私と斎藤先生は救急車や消防車、古い車やバイク、キャンプ用品などが展示されている建物を見学した。途中、自分たちが作ったサンドイッチが意外と美味しかったことも印象的だった。

自由時間後は全員でイーエスコウ城へ向かった。実際に見るイーエスコウ城は、登別にあるマリパークと同じくらいの大きさのように感じたが、城内の様子は全然違っていた。他の観覧者の邪魔にならないようリュックを前側に抱えて中に入ると、動物の剥製や高価そうな家具、絵画などが所狭しと展示されていた。水族館ではなく本物の城ということが当たり前のはずなのに意外に



感じてしまった。他にもミニチュアの模型や古いおもちゃなども展示されていて、城の中だけでも何時間でもいられるほど魅力的だった。城を出てからもドラキュラハウスや人力のゴーカーのような乗り物でたくさん遊び、名残惜しい気持ちを持ったままイーエスコウ城を後にした。

ホストファミリー宅へ戻った後、近くに住む陽斗と幸也と義文で釣りに行った。餌にコーンをつけるという斬新なスタイルだったが、魚が釣れて驚いた。釣りをしている風景もとても絵になった。夕食にハンズがタイカレーを作ってくれたのだが、この旅行で一番美味しかった食事といっても過言ではなく、何度もおかわりした。食後にはデザートも準備してくれて、着実にそして確実に体重は増えていった。

【 5日目 8月11日(月) 】

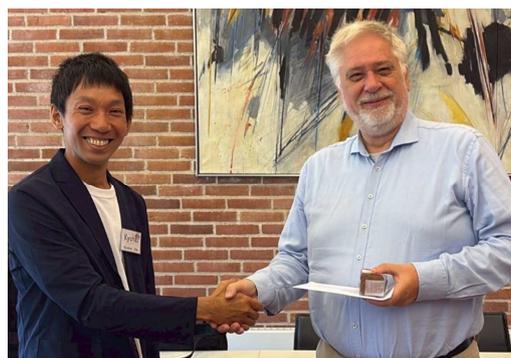
#### ファボー・ミッドフュン市見学・市長表敬

この日も昨日に引き続き肌寒い朝だった。団員たちは7回生と一緒に登校し、8時にリングフリー校に集合した。最初に校内にある保育所へ向かったが、訪問先の幼稚園の先生が体調不良で休んだり、ファボー・ミッドフュン市で会う予定のリズィさんが蜂に刺されて来られるかわからないなどハプニングが続き、その調整にアネさんが追われていたため、団員たちは保育所の子どもたちと遊んで良いのかわからず、最初は持参した折り紙を折って過ごしていた。終盤になって子どもたちと一緒に折り紙で遊んだり、ゲームをしたり交流することができた。

それからリングフリー校の向かいにある高校を見学した。建物はスタイリッシュで美術や音楽などの専門的な部屋もあり、中にいた生徒たちは皆背が高くて驚いた。屋内も屋外も敷地が広く、ここだ

けでもかなりの距離を歩いた。高校を出て市役所に向かう途中、公立学校に立ち寄った。ちょうど中休みだったようで、たくさんの生徒が楽しそうに遊んでいた。残念ながら一緒に遊ぶ時間はなかったが、何人かの生徒が私たちに興味を持って話しかけてくれた。フィボナッチ数列のベンチを通過し、墓地に入ったが、綺麗な花畑のようでとても墓地とは思えなかった。墓地を進むと大きな教会が建っていた。中は綺麗な装飾が施されていて、スベンボーの教会と同じくらい大きく立派な建物だった。教会を出た後、図書館に立ち寄った。こちらも立派な建物で、子供向けのスペースには絵本やおもちゃが置いてあった。

そしていよいよファボー・ミッドフュン市役所に到着した。そこではリズィさんが待っていてくれた。蜂に刺されたと聞いていたとおり顔が腫れていたが、笑顔で私たちを迎えてくれて一人一人に挨拶してくれた。それから、市長が議会の会議室のような部屋へ私たちを案内してくれた。団員たちは横一列に座り、市長から話を聞いた。行政に関する難しい内容の話であったが、団員からはいくつか質問が上がり、それに対して市長が一つ一つ丁寧に説明してくれた。税金や自転車、門限など多岐にわたる質問に答えてくれたが、印象的だったのはデンマーク幸福度が高い理由に「安定」と「信頼」を挙げていた点だ。確かにデンマークの税金は高いが、それによって人々は安定した生活を送ることができ、他者を思いやる心をみんなが持っていることが、デンマーク人が幸せである要因だと説明してくれた。その話を聞き、これまで私たちが受けた親切な対応を思い返すと、私はとても納得できた。また、こういった市長とのやりとりを難なくこなす斎藤先生の翻訳能力に改めて感心した。私も登別市長から預かった親書とお土産を無事渡すことができ、一安心した。



市長表敬後、街中で昼休憩をとった。団員たちはホストファミリーが準備してくれた昼食をいただき、私たちは近くのスーパーで昼食を調達した。店内はリュックの持ち込みが禁止されていたため、ロッカーに預けて売り場に入った。おにぎりとツイスターを購入し、店内で食べた後、コーヒーとマフィンを買った。マフィンは日本のものよりも甘くて柔らかく美味しかった。その時、駿輝がトイレから出られなくなるハプニングはあったが、長い道のりを経てリングフリー校に戻ってきた。

#### 始業ピクニック参加

団員たちはクラスに入り、校内を案内してもらった。私と斎藤先生も校内を探索し、体育館を見学した。体育館とは思えないような外観で、観客席付きのフロア、奥には体操のできるスペース、2階にはトレーニングができるスペースが完備されていた。校庭にはたくさんの生徒や保護者が集まってきた。お祭りのような雰囲気、音楽に合わせてみんなでたくさんの歌を歌っていた。それからいくつかのグループに分かれてゲームをした。ルールがわからない部分もあったけど、みんな楽しそうにしていた。私も風船割りのゲームに参加させてもらい、楽しい時間を過ごした。

その後はピクニックの名の通り、校庭でピクニックシートを広げて保護者が持ち寄ったお弁当を食べることとなった。食事の準備をしてこなかった私たちを見て、陽斗のホストファミリーのお母さんが私たちを誘ってくれて、料理をご馳走してくれた。彼女の作った餃子は美味しく、たくさんの話をしてくれて面白かった。生徒はもちろん、保護者同士も



仲が良くみんな楽しそうに過ごしていた。ただ、蜂がたくさん飛んでおり、食べたり飲んだりするときに蜂を飲み込まないようにアドバイスをしてくれた。食事後、団員と生徒たちはサッカーを楽しんでいた。スポーツを通して、彼らはより親しくなったようだった。予想外の料理にお腹はいっぱいだったが、夜はハンズたちが準備してくれたアジアンテイストのヌードルをいただいた。昨日のカレーに引き続き、こちらも美味しかった。

【 6日目 8月12日(火) 】

#### プレゼンテーション発表

今日は日本でいっぱい練習してきたプレゼン発表の日。事前に聞いていたとおり、広い部屋にたくさんの人が集まっていた。団員たちが緊張する中、まずはみんなで「さくらさくら」などを歌ったが、団員の中にはこの歌を知らない人もいた。歌



の後はいよいよプレゼンテーション。緊張しつつも、みんな大きな声で堂々と話せていた。ただ、私が持参したパソコンが途中で切れるというハプニングがあり、個人的にはかなり残念で悔しい思いをした。そんなハプニングも、樹音は臨機応変に乗り切ってくれた。リングフリー校の生徒たちは団員たちのプレゼンテーションをしっかりと聞いてくれて、たくさんの拍手やリアクションをしてくれた。

#### レゴランドへ

プレゼンの緊張感から解放されて、一行はバスでレゴランドへ向かった。1時間半ぐらいで到着し、全員で集合写真を撮った。私が入場料を支払おうとしたが、フリースクールの方で支払いを済ませてくれていたようだった。ここからは自由時間で、生徒たちは思い思いのアトラクションへと向かっていった。この日はあいにくの雨だったが、団員たちはアトラクションを楽しんでいた。



園内ではいろんな国の景色がレゴブロックで精巧に作られていて、どれも素晴らしかった。また、園内は様々なエリアに分かれており、エリアごとに違った景色を見せてくれて飽きることはなかった。一部の団員はお土産屋のレジに時間がかかり集合時間に遅れたものの、再びリングフリー校に戻るためバスはほぼ予定通り出発した。

#### お別れパーティー

リングフリー校に到着後、お別れパーティーの準備に取りかかった。お別れパーティーでは各家庭から料理を持ち寄り、それをバイキングスタイルでいただくというもので、私たちはうどんを振る舞うことにした。簡単だと考えていたうどんの調理は、キッチンの使い方がわからなかったりちょうど良い調理器具や食器がなかったりと、苦戦を強いられた。それでも何とか完成したうどんは大好評で、鍋の中はあっという間に空になった。各家庭で作った料理もバラエティーに富み、どれも美味しかった。

パーティーの後は、こちらもたくさん練習した歌とダンスの披露。朝にプレゼンの発表をした団員たちは、同じ会場ではあったものの再び緊張感を漂わせていた。歌は MISIA のアイノカタチ、ダンスはドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」のエンディングテーマ、星野源の恋。当初、男子6人女子3人だけど選曲は大丈夫かと大人たちは心配したのだが、そんな心配は無用で団員たちは響き渡る美声で観客たちを魅了した。その後の恋ダンスも上手に踊り、観客たちの心を鷲づかみにした。歌も踊りも大好評で、団員たちはたくさんの声援や拍手に嬉しそうだった。そして締めくくりにみんなで輪になり鬼おどりを踊った。歌やダンスを頑張っている団員たちに感化され、ここは私が先頭に立って張り切った。最初は遠慮がちだったものの、しだいにみんな楽しそうに踊りだし、最終的には日本とデンマークが一つになった。この日は盛りだくさんのスケジュールだったが、団員たちは最後まで楽しそうで非常に充実した1日となった。



【 7日目 8月13日(水) 】

#### 別れの時

とうとうリングを離れる日がきてしまった。この日は気持ちの良い快晴で、今朝もハンスが朝食を準備してくれた。毎日朝食の準備から片付けまでしてくれて、本当にありがたかった。忘れ物がないよう入念に持ち物を確認し、リング駅へ向かった。駅にはすでに団員やホストファミリーが到着していた。



アネさんやリズィさんの姿もあった。アネさんから日本へのお土産を受け取り、みんなと写真を撮ったり挨拶を交わしたりした。7回生の中には泣いている生徒もいたが、団員たちは気丈に振る舞っているのか泣いている者はいなかった。全員で集合写真を撮り、別れを惜しんでいると電車が到着した。互いに手を振り合い、電車は出発した。

派遣団の11人とコペンハーゲン市内を案内してくれる私たちのホストファミリーのビクターはリングからオーデンセまで移動し、電車を乗り換えてコペンハーゲン中央駅へ向かった。乗車してから再びスーツケースを荷物棚に上げるという重労働を終え、1時間ほどの移動を快適に過ごした。コペンハーゲン中央駅に到着すると、現地ガイドの大西さんが出迎えてくれた。観光前にスーツケースを預けるため、初日に宿泊したホテルへ向かった。チェックインは16時以降ということで、一旦スーツケースを鍵のかかる部屋に預け、再び駅へと向かった。今日のコペンハーゲンは日差しが強く、とても暑かった。コペンハーゲン市内を観光し、最終的にチボリ公園へ行くというのがこの日のスケジュールだ。ビクターと一緒に市内を案内してくれるルイと合流し、すぐ近くの地下鉄の駅へと向かった。コペンハーゲンにもたくさんの観光スポットがあり、ビクターとルイは事前にいろいろ計画してくれていたのだが、想定外の暑さのため行き先を絞って休憩を取りながら観光した。それでも、人魚姫の像やニューハウンの街並みなど主要な観光地を回り素敵な写真を撮ることができた。観光した後は地下鉄で再び駅へと戻り、駅に隣接する世界最古の遊園地・チボリ公園へと向かった。



### 楽しかったチボリ公園

チボリ公園にはレゴランドに引けを取らないくらいたくさんのアトラクションがあり、団員たちは何人かに分かれて思い思いのアトラクションを楽しんでいた。団員たちはフリーパスを購入したが、私と斎藤先生は少し悩んで入場料のみ支払うことにした。園内にはジェットコースターやフリーフォールなどの絶叫系マシンがたくさんあり、正しい選択をしたと安心した。一方、絶叫系が苦手と言っていた団員も最終的には楽しそうに何度もジェットコースターに乗っていた。予定していた時間では遊び足りず、明日が最終日ということで時間を延長することにした。団員たちの仲の良さそうな様子を見て、改めて幸せな気持ちになった。デンマークに来てたくさんのことにチャレンジしてきた団員たちも、この時はこどものようにはしゃいでいた。チボリ公園を出た後、スーパーで食料品のお土産を買い、ホテルで最後の夜を過ごした。



【 8日目 8月14日(木) 】

### デンマーク出発の日

デンマーク最終日。集合時間を遅めたため朝食会場は初日よりも混んでいた。団員たちにも体調不良者はいないようだった。慣れない環境の中、大きな怪我や病気がなかったことは本当に良かった。朝食後は最後の荷作りをし、私は一足先にロビーで待っていた大西さんと合流した。私のスーツケースは鍵が壊れて上手く閉まらなくなってしまったため、隣のスーパーでテープを購入し、ぐるぐる巻きにすることにした。団員たちは準備に時間がかかり、予定より少し遅れてホテルを出発した。少し雲はあったが、心地良い気温だった。重いスーツケースを引き、コペンハーゲン中央駅に向かった。大西さんが事前に入場券を購入してくれていたため、そのままホームに向かったが、わずかの差で予定していた電車に乗れなかった。ただ、7分後にすぐ次の電車が到着したので、別のホームに移動してほぼ予定通り空港に向かうことができた。車内は空いていたため、スーツケースを荷物棚に上げずに済んだ。ただ、柊里のスーツケースも壊れてしまったため、テープでぐるぐる巻きにした。空港に到着すると、中にはたくさんの方がいた。最初にチェックインをしたのだが、大西さんに教わりながら一人ずつ手続きをしたのでかなり時間がかかった。それからスーツケースを預けて、保安検査場に向かった。その後の流れを教えてもらい、大西さんとはここで別れた。セキュリティチェックを無事終えて、お土産購入の自由時間とした。たくさんのお店があり、機内への手荷物となるが雑貨などはここでまとめて購入した方が良さそうだった。団員たちもここぞとばかりにたくさんのお土産を買っていた。その後の出国審査は待ち時間こそ長かったものの、何も聞かれず一瞬でパスすることができた。搭乗ゲートの場所を確認してから、ここでも食べ物や飲み物などを買う自由時間とした。このエリアでも少しだけお土産が売っていたほか、セブンイレブンがあった。私と斎藤先生はデンマーク最後の食事を購入し、ベンチで食べた。それから搭乗手続きを済ませ、機内へ入っていった。団員からは帰りたくないという声も、帰って自分のベッドで寝たいという声も聞こえてきた。帰りの座席も皆固まって座ることができた。行きと同様に長時間を機内で過ごしたが、航路のせいかわれのせいかわ、帰りの方が到着が早く感じた。不思議なことに、団員たちは飛行機の中でも終始元気だった。



### 日本到着

昼12時半にデンマークを発ち、日本には朝8時に到着した。時間の感覚がわからなくなったが、到着後真っ先に感じたのは日本の異常な暑さだった。いかにデンマークが快適だったかを思い知ら

された瞬間だった。羽田空港から新千歳空港へもスムーズに移動できた。旅全体を通して、交通や移動で大きなトラブルがなかったことはとても有り難かった。新千歳空港に着いてスーツケースを受け取ると、企画調整グループの職員が出迎えてくれた。団員たちは顔をほころばせながら、楽しかった思い出を話し始めた。空港内で昼食を取り、市バスでみんなが待つ登別市役所へと向かった。乗車後は楽しそうに話していた団員たちも、最終的には諭愛以外はぐっすりと眠っていた。市役所では保護者や先生、市の職員などたくさんの方が出迎えてくれた。到着してみんなの顔を見て、無事帰ってこれて良かった、心の底からほっとしたというのが率直な感想だった。



#### 【派遣を終えて】

今回、国民の幸福度が高いデンマークに滞在し、現地の方と接して肌で感じたのは、「損得勘定なく、純粹に他者を思いやる優しさをみんなが持っている」ということでした。逆に私がホームステイを受け入れる側だった場合、これほどの待遇をできるのか考えてみましたが、正直難しいと思います。ファボー・ミッドフン市長が言うように、人は心が豊かであって初めて他者を思いやる余裕が生まれるのだと思います。他者を大切にするために、まずは自分自身を大切にし、心を安定させて周囲の人を幸せにできるような人間になりたいと思いました。

また、デンマークで「日本人は働き過ぎだ」と言われました。一つの例ですが、空港でお土産を買ったとき、レジにはたくさん人が並んでいたのに、店員は売り場を離れてどこかへ行っていました。日本ではあり得ない状況に困惑しましたが、それを咎める人もいなかったし、そういうものだと割り切るとたいしたことではないように思えました。当たり前と思っていたことが当たり前でなかったり、その逆のこともたくさんありました。

こうした何気ない経験を通じて、視野や価値観が広がったと実感しています。団員たちもたくさんの経験から学び、最初に結団式で会ったときよりも大きく成長しました。そして、その成長を語る上で欠かせないのは斎藤先生の存在です。英語力はもちろん、団員たちへの接し方やデンマークでの振る舞いなど、私にとっても団員たちにとっても非常に心強く、このメンバーとデンマークで過ごせたことを心から嬉しく思います。

最後に、本事業にはデンマーク協会をはじめ協賛いただいている事業者の皆様、団員の保護者や教職員の皆様、企画調整グループの職員をはじめとした市職員など、多くの方が携わっています。これまで30年以上もの歴史があり、団員や教職員、団長を合わせると286人もの方がデンマークを訪れ、貴重な経験を積んでいます。この事業が末永く続き、未来の子どもたちが豊かな経験を積めるよう、また、日本とデンマークをつなぐ架け橋であり続けることを祈念して、団長からの報告とさせていただきます。

## 信頼がつなく幸福

### ーデンマーク派遣交流授業を通して

登別市立幌別中学校 齋藤智弥

AIの急速な普及、終わらない戦争、関税の影響、年々深刻化する気候変動... 世界が大きく揺れ動く中、今年も「世界幸福度調査(World Happiness Report)」の結果が公表された。私たちが今回訪れたデンマークは、例年通り上位に名を連ね、今年も第2位という高い順位を記録している。

私自身、これまでに2度デンマークを訪れているが、そのたびに感じるのは「穏やかで心地よい時間が流れている」ということだ。しかし、なぜここまで安定してデンマークの人々は「幸せ」を実感しているのだろうか。今回の派遣を通して、私はその答えの一端に触れることができたように思う。

それは、ファボームッドフュン市役所を訪問した際のことだった。派遣団の一人が「なぜデンマークは幸福度が高いのか」と質問したところ、市長は二つのキーワードを挙げてくださった。それは「stable(安定)」と「trust(信頼)」である。

まず「stable」について市長は、「デンマークは自然災害が少なく、天候も比較的穏やかである。そして、税収を基盤とした政策によって、人々は安定した生活を送ることができている」と述べた。これはすでによく知られている通りである。

一方で「trust」については、「デンマーク人の幸福度が高いのは、身近な人との信頼関係が根底にあるからだ。人々は互いを思いやり、他者に対して良く振る舞おうとすることを美しいと考えている」と語った。美しい考え方だと感じた一方で、「stable」に比べると抽象的で、本当にそれが幸福度の高さの理由なのか、当初は正直なところ半信半疑であった。

しかし、その日の午後、私はその言葉の意味を身をもって体験することになる。リング・フリースクールでは新学期の始業日に合わせ、生徒・保護者・教員合同のピクニックが予定されていたが、連絡の行き違いで私と団長は昼食を持参していなかった。それに気づいた7学年の保護者の2家庭が、自分たちのレジャーシートへ私たちを招き入れ、手作りの料理を分けてくださったのである。

その場では、デンマークと日本の文化や学校生活の違い、言語の共通点、受け入れている派遣生徒の様子などについて、終始笑顔で会話が弾んだ。温かく穏やかな空気の中で、彼らが常にこちらへの気配りを忘れない姿勢に、言葉では言い尽くせないほどの美しさを感じた。そしてふと、「これこそがデンマークの人々が日々感じている幸福なのだ」と気づいたのである。午前中に市長が語って

いた「他者を思いやる姿勢」や「人に良く振る舞うことの美しさ」を、まさに“原体験”として実感する瞬間だった。

私は7年前の報告書で、「異文化を体験する意義」について、「海外の文化を知ることによって自国への理解が深まる。だからこそ世界へ出て、さまざまな視点を獲得してほしい」と書いた。その考えはいまも変わらない。しかし今回の派遣を通して、私は新たな気づきを得た。それは、外からの視点を増やすだけでなく、それを踏まえて自分の身近な人との信頼関係を大切にしながら生きることの重要性である。

今回、新しい視点を得た派遣団の生徒たちにも、ぜひ日々の暮らしの中で「trust」を大切にしてほしい。それは、皆さんが自らの自己実現を果たす大きな力となるだけでなく、デンマークで感じたあの温もりのような日常を、きっと自分の周りにももたらしてくれるはずだ。縁あって共にデンマークでかけがえのない時間を過ごした皆さんと、またいつか再会できる日を心から楽しみにしている。

最後に、このデンマーク派遣事業を登別市の重要な国際交流事業として位置付けてこられた小笠原春一市長、安宅錦也教育長をはじめ、事前・事後研修で多大なご尽力をいただいた企画調整グループの皆様、そして私を含め派遣団全員を家族のように温かく支えてくださった小野団長に、心より感謝申し上げたい。

今後も登別市の子どもたちが、ヨーロッパ有数の幸福な国・デンマークで、人生を豊かにするかけがえのない経験を重ねていけることを願ってやまない。

# 帰国報告会資料 (派遣生徒)

帰国報告会に向け生徒が実際に作成し、使用したスライドをそのまま掲載しております。



デンマーク王国 レゴランドにて

# デンマークの食と日本の食 の違いについて

登別市緑陽中学校 3年 中村柊里

# 目次

○デンマークと日本の食べ物の違い

○デンマークの食べ物

○日本の食べ物

○味の違い

・ホストファミリーの様子



## デンマーク

- ・ お菓子などが出てきてご飯ではないような感じがする
- ・ バイキングのように、自分で自分の食べる分を取り分ける形式



## 日本

- ・ お菓子は出てこない
  - ・ ご飯を作ってくれた人が量を決めて取り分ける形式
- (おかわりは自分で取れる)

## デンマークの食

デンマークでは夜ご飯ポテトチップス！  
ポテトがそのまま出てきてその上に  
自家製のソースを載せて食べるのが  
美味しかった！



## 日本の食

日本は米やおかずがバランスよく  
出てくる！

もちろん、お菓子などは出ない。



## 味について

デン  
マ  
ー  
ク

- ・ 日本とは違って茹でてでも野菜がThe生って感じの味がした
- ・ 野菜にかけるソースが独特な味がした



日  
本

- ・ 野菜とかにかけるソースはごまや玉ねぎのソースなど
- ・ 野菜とかはカレーとかにして食べるからThe生って感じの味がしない



## ホストファミリーの様子

- ・ 家に入ると部屋が何個もあり選んでもいいよと言われた
- ・ 朝起きると赤ちゃんがいてびっくりした。次の日もいたから気になって聞くと幼稚園だった！



ご清聴ありがとうございました ✨



# デンマークの パーティーについて



北海道登別明日中等教育学校 3年生 大槻樹音

こんにちは  
私は、デンマークのパーティーについて調べてきました。  
大槻樹音です。

## ○もくじ

◎デンマークと日本のパーティーの比較

◎始業ピクニックの様子

◎お別れパーティーの様子

- ・ホストファミリーとの生活
- ・派遣団のようす

デンマークと日本のパーティーの違い、デンマークのパーティーの様子、派遣中の生活について、という流れでお話させていただきます。

## デンマークと日本のパーティーを比べる

### デンマーク

- ・ ホームパーティー文化
- ・ 家族や地域の人を大事に
- ・ パーティーに参加する人たち  
持ち寄り
- ・ 集まって一緒に作る



### 日本

- ・ お店での打ち上げ
- ・ 学校や職場の人たちと
- ・ お店で注文をして  
みんなで食べる



まず、デンマークと日本のパーティーを比べました。その結果、日本ではお店での打ち上げという形でパーティーが行われることが多く、特徴はクラスや職場の人たち、小学校など昔の友人などとパーティーをするということです。また、飲食店でご飯を食べるというのも大きな特徴です。それに対して、デンマークではホームパーティー文化が根づいています。そこでは、家族や地域が大切にされています。食事はパーティーに参加する人たちの持ち寄りや一緒に料理をしたものが食べられています。まとめると、日本ではお店でパーティーが行われていて、デンマークでは家でパーティーが行われています。

## 始業ピクニック in Ringe

- ・ デンマークでは8月から**新学期**
- ・ 「**始業式**」という決まった形式はない
- ・ いくつかの縦割りグループに別れカードの交流ゲーム、かくれんぼなどをした。
- ・ 家族ごとで座ってシートの上でご飯を食べた。



続いて、派遣中に体験したデンマークのパーティーやイベントの様子について紹介します。

まず、私達が交流をしたリンゲフリースクールでは新学期の始まる日に始業ピクニックをしました。デンマークでは8月が新学期にあたります。今日から7年生になるんだ というような会話もホストファミリーとの間でありました。日本では始業式という形で新学期が始まりますが、デンマークでは「始業式」という決まった形はないそうです。この始業ピクニックでは小さい学年の子たちと一緒にいくつかの班に別れてゲームをしました。その後、家族ごとでご飯を食べました。食べ終わったあとには学校の校舎の方にピンク色のジュースと何種類かのケーキがあり好きなケーキを選んで食べました。日本では始業式が楽しいものという認識はないように感じますが、この始業ピクニックはとても楽しく、こんな学校だったら長期休み明けでも気分が明るくなると思います。このような文化がデンマークの幸福度を支えているのだと思いました。

# お別れパーティー

- ・夕方から開始
- ・ご飯をいろんな家から持ち寄って

みんなで食べる



菜箸がないよ！！



次に、リングを離れる前のお別れパーティーをしました。そこでは私達派遣団が日本の食べ物であるうどんを振る舞いました。たくさんの現地の方たちがお皿を持って並び、うどんに興味を持ってくれました。私達も現地の食事を取っていたので久しぶりの日本食に嬉しさを感じ、うどんの味に感動しました。あんなに日本食に感動させられたのは初めてでしたが、自分の口に慣れた味があるというのを実感しました。先程のデンマークと日本のパーティーの違いで紹介したようにご飯は持ち寄りで自分で取り分けて食べる形でした。

## ホストファミリーとの生活

- ・ トランポリン
- ・ アクセサリー作り
- ・ ボードゲーム（Ludoなど）
- ・ 折り紙
- ・ 紙風船



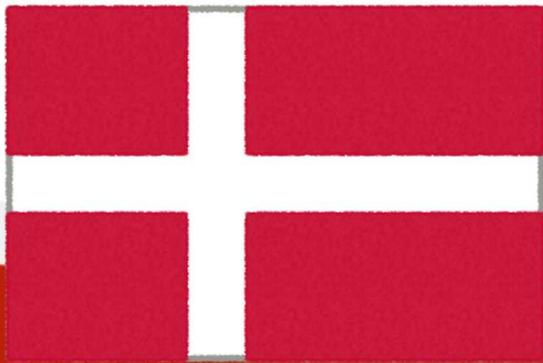
ここから派遣中の様子について紹介します。ホストファミリーとの生活ではトランポリン、アクセサリー作り、ボードゲーム、折り紙などをして過ごしていました。デンマークの家庭にはトランポリンが庭にあるというのが一般的だそうです。現地の子たちはトランポリンを飛びながら一回転をしたりしていて、日頃からトランポリンを跳んでいるのだということが感じられました。また、私のホストファミリーのお家にはたくさんのボードゲームがあり、その中でもヨーロッパで人気があるLUDOを毎日のようにやっていました。新しいボードゲームを始めるときには英語で説明をしてくれていたのですがそれを聞き取って理解するのがとても難しかったです。これも理由の一つとはなりましたが、最後まで勝敗がわからないところが魅力でLudoがとても気に入りました。

## 派遣団の様子



最後に、派遣団の様子について紹介します。今年の派遣団はパワフルな男子が多く、明るい派遣団となりました。特に、スーパーマーケットのトイレで出る方法がわからなくなったり、帰りの飛行機スカンジナビア航空に財布を忘れる団員もいてハプニングもありましたがとても楽しかったです。右上の写真はコペンハーゲンを観光した日にチボリ公園で撮った写真です。しばらくはいくつかのグループに分かれてアトラクションを回っていたのですが、最終的にはジェットコースターを怖がっている団員も含め9人全員で一緒に同じジェットコースターに乗りました。その時の待ち時間に撮りました。結局予定の時間よりも集合時間を伸ばしてチボリ公園を楽しみました。一生の思い出です。

# デンマークの過ごし方



及川諭愛

今回の研修で私は「デンマークの生活様式」について調べてきました。生活の仕方にはその人の性格や周りの環境の影響がよく表れます。なので、日本と遠く離れたデンマークでの生活の仕方も知りたいと思ってこのテーマにしました。

# ホストファミリー



私達は「リングゲ」という街でホームステイをしました。  
その際に私を引き取ってくださったホストファミリー  
です。（私はAlma家に滞在しました。）  
今回紹介する一日の生活様式はこのAlma家を参考にし  
たものです。

# 一日の流れ

起床：6時～7時

朝食ーパン、コーンフレーク



（早速、（デンマーク人の）一日の過ごし方を紹介していこうと思います。）

起床は日本と同じように6～7時で、朝食もパンやコーンフレークとすぐ食べられるものでした。

パンは普通のものではなく、ライ麦パンといいます。写真のとおり茶色っぽく豆みたいなものが含まれていました。少しモサモサとしていて、とても小麦の味がしました。コーンフレークは日本と同じでした。

# 一日の流れ

～登校:出勤～

- ・ 徒歩、自転車、バス、親の送迎



デンマークの学校はひとつひとつの校区範囲が広いので様々な方法での登校が許可されています。ダントツで多かった登校手段は自転車で、3箇所もある駐輪場はどこも自転車で溢れかえっていました。

国としてもデンマークは自転車の利用率がとても高いです。理由としては、山などの急な傾斜がないことやガソリンと自動車の税が高い、ということが挙げられます。

# 一日の流れ

～学校～（7年生の場合）

登校8:00

| (授業：約60分ずつ×6)

| **お弁当 10:00 and 12:00**

下校 15:00



学校は8時から3時までとあまり日本とは変わりません。ですが、習う教科は学年ごとに違って七年生だとドイツ語や

化学、宗教といったものがあります。

宗教という授業ではデンマークで主に進行されているキリスト教や他の宗教について習ったり、それらの宗教と社会の関係を考えたりするそうです。

お昼ご飯は給食ではなく主にお弁当を持参し、教室やカフェテリアで食べます。

（お昼ご飯は人参やきゅうりと生の野菜とサンドイッチであることが多いです。）

食べる時間が2回に分けられているのは、お弁当の量が基本的に多めであるからで、2回にわけてゆっくり食べる事ができるようにできています。

# 学校生活

## Ringe Friskole



# 一日の流れ

～放課後～

✖宿題

✖門限

→外の日が長い

ので、、、、

よく遊ぶ！！



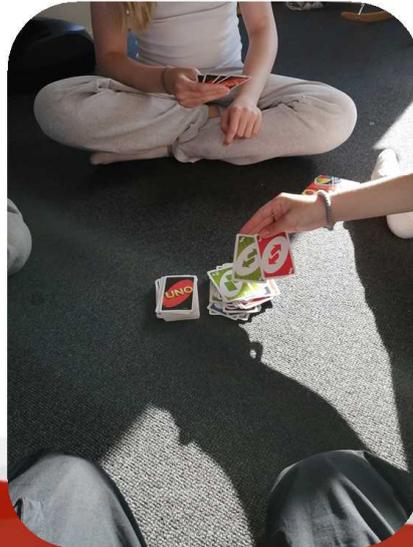
放課後はとにかく遊びます。

理由はスライドに書いてあるとおりで、日本のように宿題がたくさんだされる、ということは夏休みでもあまりないそうです。

主に外にでて遊ぶことが多く、（滞在中）私は一緒に公園にいたり、家の庭にあるトランポリンで遊んだりしました。

# 一日の流れ

～放課後～



一方、家の中で遊ぶときはボードゲームやビデオゲームをして遊びます。  
日本でみたことのないボードゲームもたくさんありました。Switch やUNOもありましたがデンマーク語で書かれていてびっくりしました。  
また、お土産に折り紙を持ってきていたので、アルマとその妹のエレンといっしょに折り紙をしたりもしました。

# 一日の流れ

～夕食～

17～18時



夕食は5時～6頃と早めで、日本の夕食よりも味がしっかりしているものが多かった気がします。  
主に生の野菜と主食という2つの構成で、もちろんフォークとナイフで食べていました。  
私が滞在したときは、トルティーヤやいろいろな野菜が味をつけたお米などを食べました。

# 一日の流れ

## ～Hygge～

親密な時間を共有して絆を深める

ストレスの軽減、睡眠の質の向上が証明されている



夕食を食べ終わると、リビングに家族で集まって過ごします。これはデンマーク特有の「Hygge」というライフスタイルで、家族で集まって今日あったことなどを話したり語り合ったりして親密な時間を共有する、というものです。間接照明のみの薄暗いリビングの中で、編み物をしていたり、テレビを見ていたりしており、雰囲気はゆったりとしていて心地よかったです。右上にある人形の写真は、このときに編んでつくってくれたものです。

また、このライフスタイルはデンマークが幸福度の高い国である理由の一つでもあると言われており、世界各地で注目を集めています。

そして21半頃から寝る準備をして、22時には就寝というかんじでした。

## ～まとめ～

- ・ 生活 ⇨ 優しい、おおらか、余裕がある  
家族をすごい大切にしている
- ・ 時間に対してあまり厳しくない  
⇨ マイペースに過ごせる



これが私の体験したデンマークの一日です。  
私は最初に生活はその人の性格を表す、と言いましたが、  
ホストファミリーや現地でお世話になったデンマーク人の  
方はみんな優しく、おおらかな人でした。時間についての  
考え方も日本ほど厳しくなくて、時間に縛られることなく  
マイペースに過ごすことができました。

私はこの貴重な経験を活かして、自分の生活様式や時間の  
使い方を見直していきたいです。  
ご清聴ありがとうございました。



# デンマークの スポーツと思い出<sub>DK</sub>

市立緑陽中学校 2年 山内 陽斗



こんにちは。登別市立緑陽中学校2年の山内陽斗です。私はデンマークの盛んなスポーツと現地での思い出について発表します。

# 国技

公式に定められた国技はない

デンマークが発祥の地のハンドボールが  
国技として扱われている



まずは国技についてです、デンマークに行く前は国技をハンドボールだと思っていました。ですがホストファミリーの方にきくと、国技は公式に定められてないよと教えてくれました。ですが、デンマークがハンドボール発祥の地でもあり、とても人気なので、国民からは国技として認められているそうです。主にヨーロッパで人気のハンドボールがデンマーク発祥と知って、とても驚きました。ここからは、デンマークで盛んなスポーツを紹介します。

# ①ハンドボール

デンマークで一番盛んなスポーツ



1つ目はハンドボールです。現地の中学生でやっているという人は少なかったけど、みんなよく見ると言っていました。私もホストファミリーの家のテレビで試合を見ました。とても速いシュートやアクロバティックなシュートをたくさん打っていて、見ててとても面白いと思いました。日本ではあまり認知度が高くないスポーツですが、もっとたくさんの人に面白さを知ってもらいたいです。

## ②フットボール(サッカー)

現地の中学生のほとんどがサッカークラブに入っていた。

屋内でやるフットサルも人気がある。

2つ目はフットボールです。現地の小中学生はほとんどがフットボールクラブに入っており、日本の学校のグラウンドよりも大きなフットボールコートがデンマークには沢山あったので、フットボールをする環境がとても整っていると感じました。さらに、屋外だけではなく屋内でも盛んに行われているスポーツらしく、夏は外で、冬は屋内でやると言っていました。デンマークにはデンマーク・スーパーリーグという日本で言うJリーグのようなものがあり、ハンドボールの次に盛り上がっているそうです。

### ③ロードレース

自転車の使用率が高い

自転車専用レーンがある

推奨されている



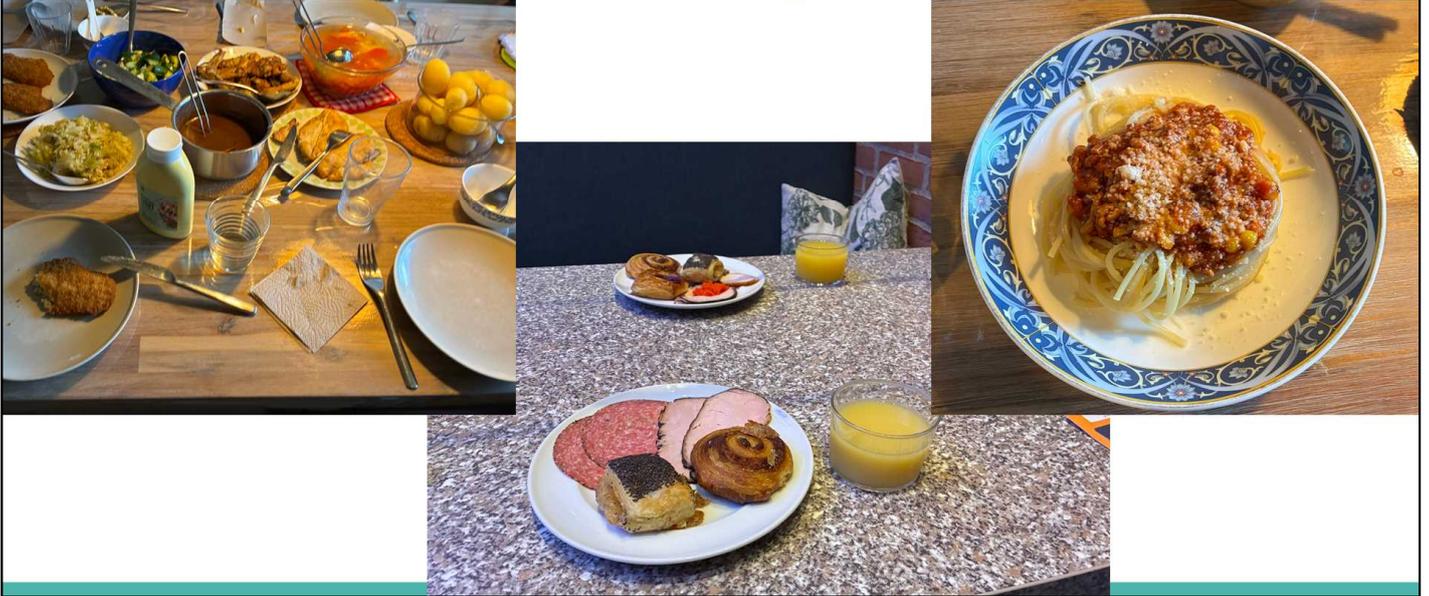
3つ目はロードレースです。これも日本ではあまり知られていないスポーツですが、デンマークでは自転車が市や国から推奨されており、日本と比べとても使用率が多いなと感じました。また、コペンハーゲン駅の近くには2階建ての駐輪場がたくさんあったり、自転車専用レーンがほとんど全部の道路にありました。日本は自転車より車の方が多いけど、デンマークでは自転車の方が圧倒的に多かったです。

自転車に親しみがあるので、ロードレースの人口が他の国と比べるととても多い。



このような取り組みから、デンマークでは小さい頃から自転車に親しむことが多いので、ロードレースの人口も他の国よりとても多いんです。私も短い移動なら自転車をよく使うので、自転車専用レーンがあるのは羨ましいと思いました。また、一部の企業は、自転車通勤をしている人に通勤距離に応じた手当を支給する場合がありますなど、自転車が優遇されていました。

# おまけ デンマークのご飯



次にデンマークのご飯についてです。デンマークではパンとパスタが主食で、その他に、りんご、スイカなどのフルーツや肉を食べていました。私が一番美味しいと思った料理は、左の写真に乗っているブラウンソースです。それをじゃがいもや魚の肉につけて食べるのがほんとに美味しかったです。しかも、ホストファミリーの人が家でじゃがいもを育てていて、収穫したてのじゃがいもだったので、より一層美味しく感じられました。ホテルでのご飯は、バイキングでした。ですが日本とは違い、約10種類もの肉が置いてあり、とても驚きました。

# ホストファミリー について



最後にホストファミリーについてです。みんなとても優しく、デンマークのことに  
ついてたくさん教えてくれました。そのおかげで、沢山のことを学べたし、英語で  
の会話も上達したと思います。さらに、家の近くの池に釣りをしに行ったり、ビー  
チでカニを釣り、それを素揚げにして食べたりなど、とてもたくさんのことを体験  
させてくれました。デンマークでは家の庭にトランポリンがあることが普通らしく、  
とても驚いたし、今まで見た中で一番大きなトランポリンだったので、とても楽し  
かったです。

## まとめ

日本とデンマークでは盛んなスポーツが結構違った。

食では、パンやパスタが主に食べられていた。



デンマークでは、日本とは盛んなスポーツが結構違い、日本では野球やバスケが代表的ですが、デンマークでは、ロードレースやハンドボールなどが盛んに行われていました。食事では、主食がパンやパスタが多く、その他に肉や野菜よく食べられていました。普段の食事でも、バイキングのように好きなものを好きなだけ食べる。という感じで、自由度が高かったです。

# ご清聴ありがとうございました



これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

# デンマーク

～思い出～

登別市立緑陽中学校 1学年

宮崎将宗



## 1,伝統的な街並みについて

独特で魅力的な建築様式、温かい街並み。赤レンガの建物、カラフルな家々、そして歴史を感じさせる運河。首都コペンハーゲンは、その代表例ニューハウンの運河沿いのパステルカラーの建物。かつて船乗りたちが集ったこの場所は、今ではカフェやレストランがあり、観光客や地元の人々で賑わっていた



デンマークを訪れると、その独特で魅力的な建築様式と、そこに息づく温かい街並みに心を奪われます。赤レンガの建物、カラフルな家々、そして歴史を感じさせる運河が織りなす風景は、まるで異世界に迷い込んだかのようなものでした。

首都コペンハーゲンは、その代表例だと思います。ニューハウンの運河沿いに並ぶ、パステルカラーの建物。かつて船乗りたちが集ったこの場所は、今ではカフェやレストランがあり、観光客や地元の人々で賑わっていました。

## 2,街並みについて気づいたこと

デンマークの建築→古いものと新しいものが調和している

歴史的なお城や教会が大切に保存されつつ、大胆なデザインの現代建築も積極的に取り入れられている。街全体に自転車文化が根付いていることも、デンマークの街並みを特徴づけている。

他：自転車専用のレーンが整備され多くの人が自転車で移動することで街はより人間的で、現代的でありながら落ち着いた雰囲気を感じた



次に、デンマークの街並みを見て気がついたこととお話します。デンマークの建築は、古いものと新しいものが調和しているのが特徴だと感じました。歴史的なお城や教会が大切に保存されている一方で、大胆なデザインの現代建築も積極的に取り入れられています。街全体に自転車文化が根付いていることも、デンマークの街並みを特徴づけています。専用の道路が整備され、多くの人々が自転車で移動することで、街はより人間的で、現代的でありながら落ち着いた雰囲気を感じました。

### 3, Egeskov城

登別マリンパークニクスのニクス城のモデルにもなった「Egeskov城」。

特徴：湖に浮かぶ幻想的な景観

詳細：1554年にフラン・ブロッケンフスによってルネサンス様式で建設された城

デザイン→赤レンガを貴重としたデザイン

名前の由来→城の基盤を作る際に湖に大量の樫の木の杭を打ち込んだことから「イーエスコウ（樫の木の森）」となった



次に、建築物としてマリンパークニクスのニクス城のモデルにもなった、Egeskov城についてお話しします。Egeskov城は湖に浮かぶ幻想的な景観が特徴です。1554年にフラン・ブロッケンフスによってルネサンス様式で建設された、歴史ある城です。赤レンガを基調としたデザインとなっていて、水面に映る城の姿は絵画のようです。「Egeskov」は城の基盤を作る際に、湖に大量の樫の木の杭を打ち込んだことが「イーエスコウ（樫の木の森）」という名前の由来になっているらしいです。

## 4,現地の人々の様子

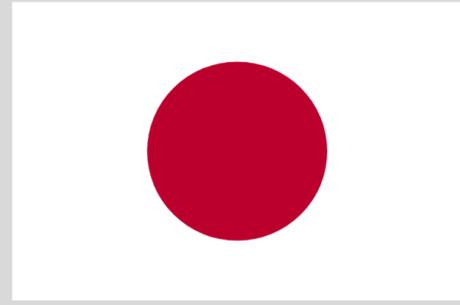
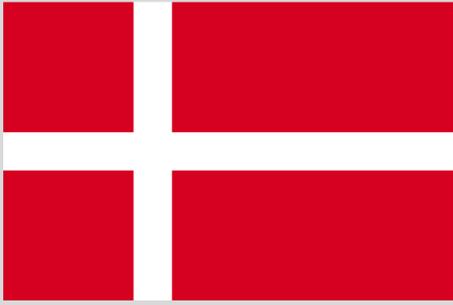
現地の人々たちの距離感としては思っていたほど近いわけではなく、一人一人失礼のないように丁寧に生活していたと思った。知り合い同士の距離は日本人々よりも近いように感じた。

少し穏やかな感じがし、日本より知らない人と話す機会が多かったと思った。（相手が話しかけてくるのが少しあった）



現地の人々たちの距離感としては思っていたほど近いわけではなく、一人一人失礼のないように丁寧に生活していました。知り合い同士の距離は日本人々よりも近いように感じました。

少し穏やかな感じがし、日本より知らない人と話す機会が多かったと思います。



# デンマークの食と歴史

1年生 佐々木煌我

これから発表を始めます

## はじめに

僕はもともと世界の地理や歴史に興味があり、今回デンマークに行けることをとても楽しみにしていました。

その中で、デンマークの歴史についてと、食文化についてを研修テーマにしました。

僕はもともと世界の地理や歴史に興味があり、今回デンマークに行けることをとても楽しみにしていました。

その中で、デンマークの歴史についてと、食文化についてを研修テーマにしました。

# 目次

- ・イーエスコウ城について
- ・ホストファミリーについて
- ・ホストファミリーの住居について
- ・ホストファミリーの子どもたちについて
- ・デンマークで食べた料理について
- ・人気なお菓子について
- ・まとめ



# イーエスコウ城

- ・1554年に建造
- ・当時の有力貴族が建設
- ・マリパークのモデル



まずはイーエスコウ城です。デンマークに行って一番歴史を感じたのは、登別マリパークニクスのニクス城のモデルにもなったイーエスコウ城でした。城は、1554年に当時の有力貴族の権力と、財力を表す拠点として建てられたそうです。マリパークに行くたび、綺麗だなと思っていたのですが、現地で本物を見ると、マリパークで見るよりさらに綺麗に感じました。デンマークと登別のつながりが凄く実感できて、嬉しい気持ちになりました。

# ホストファミリー

- ・父、母、息子二人、娘一人
- ・すごい両親
- ・みんな優しい
- ・料理上手
- ・アクティブ



つぎに僕がお世話になったホストファミリーについてです。

家族構成は、僕と同じ年で日本の中学1年生にあたる7年生の長男と、

お父さん、お母さん、弟、妹の5人家族です。

とても心優しい5人家族で、お父さんが会社の社長、お母さんが整体師、そして両親揃って射撃の元オリンピック選手というすごい人達でした。

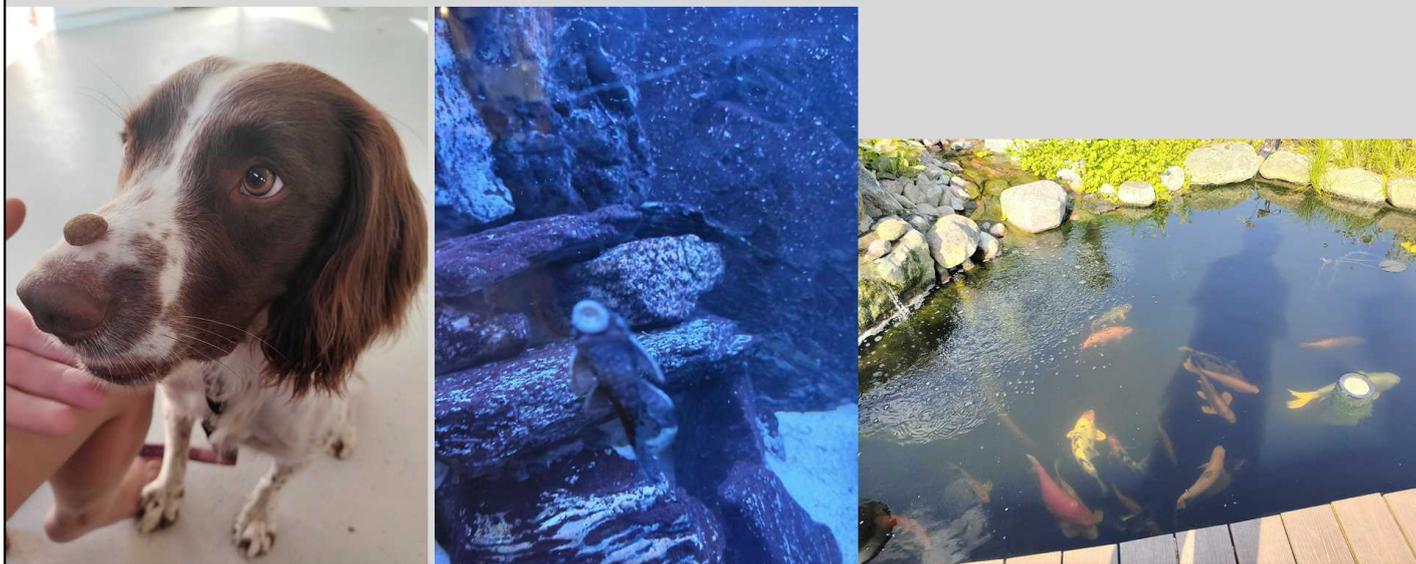
# 豪邸

- ・ とても大きい
- ・ 土地も広い
- ・ 敷地の中に大きい公園があるよう



両親の職業もあってか、家はとても大きくきれいで、大きい庭や鯉がいる池、ブランコやテニスコート、休憩所やきれいな車庫、トランポリンなどがあり、豪邸でした。

# かわいいペット達



家の中には可愛い犬や金魚がいたりもしました。今後うさぎも飼う予定らしいです。快適で、素晴らしいお家でした。

# アクティブな子どもたち



ホストファミリーの子ども達やリングフリースクールの学生達とは、バスケやサッカー、卓球やトランポリンなどいろんな遊びをしました。デンマークの子ども達はみんなスポーツが上手でびっくりしました。デンマークの家庭には必ずと行っていいほどトランポリンがあり、みんな小さいうちから運動に親しんでいるとのことでした。私はスポーツが苦手なので、競技系のスポーツは全然敵いませんでした。それでもホストファミリーや、現地の学生と一緒にするスポーツはとても楽しく、いい思い出になりました。

# 美味しい料理



一番気になっていたデンマークの食べ物は、正直想像以上に美味しかったです。お米は一回も出ず、野菜とパン、肉がメインでした。りんごジャムにクリームをのせたデザートや、ワッフル、サンドイッチなど様々なものを食べました。そして日本よりリンゴやバナナ、ぶどうなどの果物がたくさんできました。ホストファミリーの両親が作ってくれた料理は特に美味しく感じました。

# 人気なお菓子

- ・デンマーク人から人気なお菓子
- ・ホストファミリーから、デザート  
のトッピングとして出してくれた。
- ・すごく独特な味がした。



右の黒い物は、「リコリス菓子」というデンマークで人気なお菓子の種類です。ホストファミリーから、アイスクリームのトッピングとして出してくれましたが、味がすごく独特で、驚きました。味が独特という表現は、かなりオブラートに包んだ言い方です。実際に、お土産にリコリス菓子を買ってきて、家族や友達に配った際は、ほとんどの人が悶絶しておもしろかったです。もちろん、現地の人たちはいたずらや嫌がらせでこれを勧めてきたわけではなく、デンマークでは広く親しまれた美味しいお菓子だそうです。こういうところにも文化の違いを感じることができておもしろかったです。

## まとめ



デンマークは思った以上に料理が美味しくて、人が優しくて、そしてまち並みがきれいでした。日本にはない景色やもの、体験をできました。デンマークで過ごした8日間はかけがえのない最高の思い出になりました。この経験を将来に活かせるといいなと思います。そしてまたデンマークや、デンマーク以外の海外にも行ってみたいと思いました。

さいごに、今回の派遣事業に力を貸してくださった市役所の皆さんや先生、その他大勢の方々にとっても感謝しています。

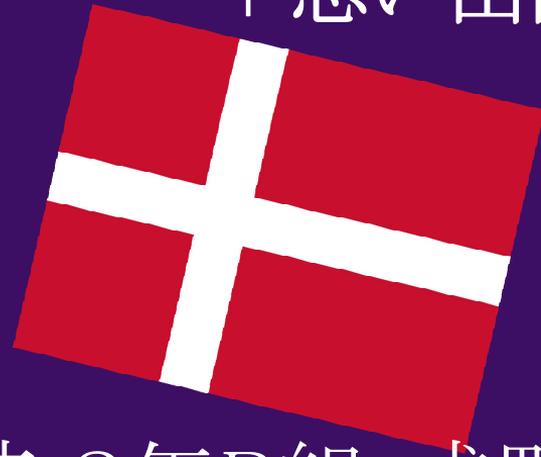
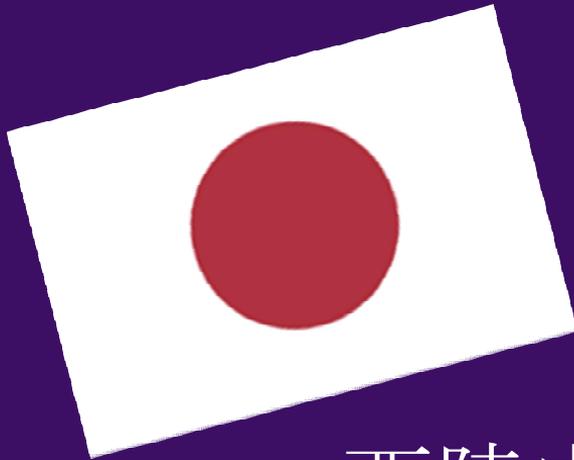
どうもありがとうございました。

デンマークの朝ごはん

&

ホームステイの日常

+ 思い出話



西陵中学校 2年B組 戒野 義文

# ホームステイした家の人達

- ハンス
- マーティン
- マリック



# デンマークの朝ごはん



# ホームステイの日常



- 118 -

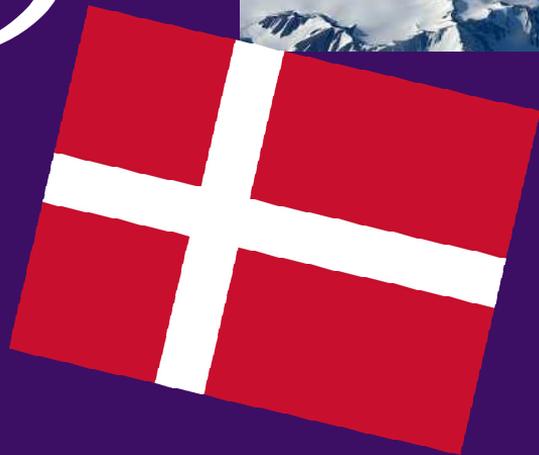
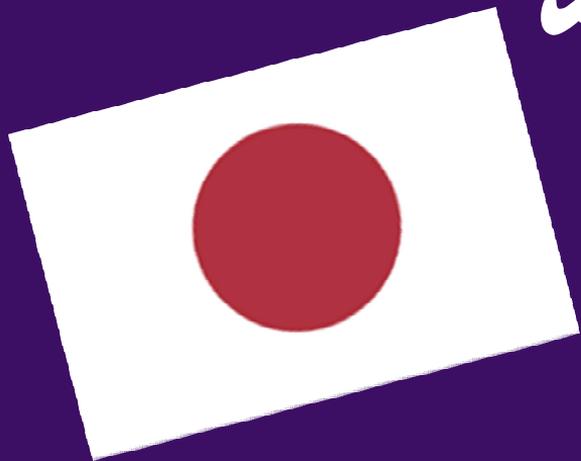








おわり





# デンマーク研修を終えて

登別市立鷺別中学校 1年 佐藤 駿輝

これから私の発表を始めます。

## 目次

- ・ 研修テーマについて
- ・ ホストファミリーについて
- ・ まとめ

まず初めに目次です。1つ目に、研修テーマについて。2つ目にホストファミリーについて。最後にまとめです。

## 1.研修テーマについて

# デンマークの生活



# デンマークの人々はなぜ 幸福度が高いのか

まず初めに1つ目の研修テーマについてです。僕はデンマークの生活について調べることにしました。デンマークの生活はどうなのかをあらかじめ調べてみると、毎回出てくる「幸福度」という言葉が気になりました。なので僕は「なぜデンマークは幸福度が高いのか」について調べることにしました。

- ・ 自然災害が少なく安定している
- ・ 人々がお互いを信頼し合っている
- ・ 社会福祉が充実している

なぜデンマークは幸福度が高いのかについて気になり、実際に登別市との友好関係でもあるファボー・ミッドフュン市の市長に、なぜデンマークは幸福度が高いのかについて聞いてみました。デンマークが幸福である理由は主に3つありました。1つ目は自然災害が少なく安定している。2つ目は人々がお互いを信頼し合っている。3つ目は社会福祉が充実しているでした。自然災害や信頼、社会福祉など気になるワードがたくさん出てきました。なので家に帰ってからこの3つについてさらに詳しく調べてみました。

自然災害が少なく安定している

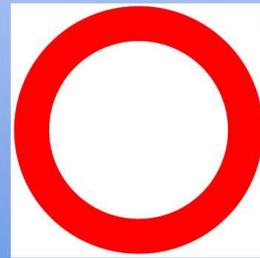
1. 地理的条件と山がない平坦な地形であるため地震が少ない

2. 山がないため、大雨による土砂崩れなどの被害がほとんどない



デンマークの人々が幸せと感じる理由1つ目は自然災害が少なく安定しているです。自然災害が少ない理由は主に2つあり、地理的条件と山がない平坦な地形であるため、山がないため、大雨による土砂崩れの心配がないです。デンマークが自然災害が少ない理由はデンマークがある場所や地形が関係していることが分かりました。

人々がお互いを信頼し合っている



デンマークの人々が幸せだと感じる理由2つ目は人々がお互いを信頼しているです。私はこの理由がデンマークの人々が幸せだと感じる理由で一番重要だと思っています。お互いが半信半疑のままにか物事を進めるとうまくいかないことがあります。でもお互いを信頼して物事を進めると半信半疑のまま物事を進めるよりもうまくいく確率が上がるからです。人々がお互いを信頼し合っているからこそ、自分のやりたいことをすることができ、幸せと感じる人々が多いのかもしれない。

社会福祉が充実している

消費税が25%

所得税が50%超え



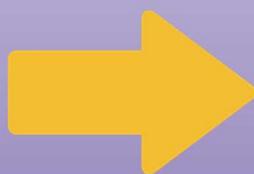
医療費、教育費が無料

手厚い社会福祉サービスの実施

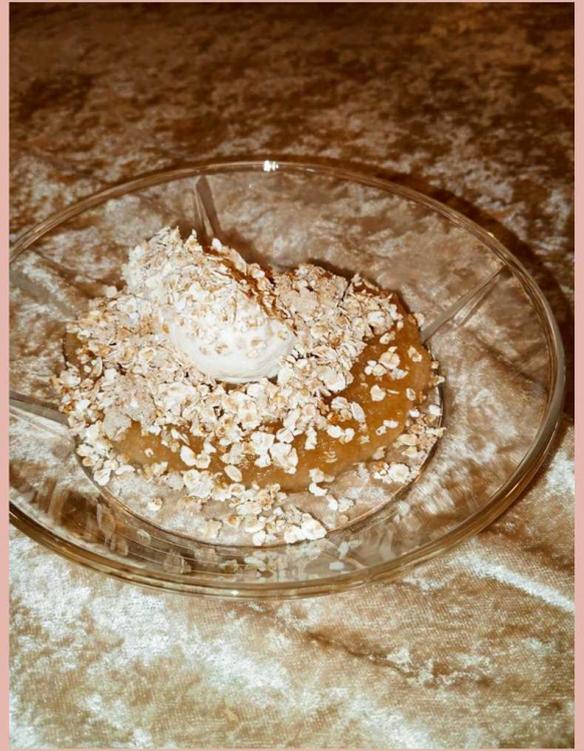
デンマークの人々が幸せだと感じる理由3つ目は社会福祉が充実しているです。デンマークは消費税が25%、所得税が50%を超えているということの代わりに、医療費、教育費のほとんどが無料、手厚い社会福祉サービスの実施など、小さい子から高齢者に向けた幅広い年代へのサービスを設けています。

ホストファミリーについて

## お父さん、お母さん、子供3人



次にホストファミリーについてです。ホストファミリーの家族構成は、お父さん、お母さんと子供が3人でした。子どもたちはとても活発で家の中でおもちゃで遊んだり、家の庭で遊んだりしていました。時には一緒に遊んだりもしました。とても楽しかったです。ホストファミリーのみんなは、とても優しく、僕達が英語を理解していないときには、スマホの英語翻訳で僕達に必死に意味を伝えようとしてくれたりしてくれました。向こうから積極的に話しかけてくれたのでとても接しやすかったです。



この写真は実際にホストファミリー宅で出してくれたご飯です。左の写真が夜ご飯で出してくれた、豚肉の煮付けと野菜とじゃがいもです。右の写真がデザートとして出してくれた、リンゴジャムの上に生クリームを乗せ、その上から砂糖オートミールをかけたデンマークの伝統的なデザートです。2つともとても美味しくて、何回もおかわりしてしまいました。

## まとめ

- ・ 地理的条件や地形によって自然災害が少ない
- ・ 人々がお互いを信頼しているから幸せと感じる人々が多いということ
- ・ 手厚い社会福祉サービスの実施によって幸せだと感じる人々が多い

最後にまとめです。デンマークは地理的条件や地形によって自然災害が少ないということ、人々がお互いを信頼しているから幸せと感じる人々が多いということ、教育費・医療費が無料だったり、手厚い社会福祉サービスの実施によって幸せだと感じる人々が多いということがわかりました。もしまたデンマークに行ける機会があったら行って、次は他のことについてもさらに詳しく知りたいと思いました。これで私の発表を終わります。



# デンマーク訪問記

高屋敷 幸也



- これから発表を始めます。

まず初めに、僕の今回の研修テーマである食文化について発表したいと思います。

## 伝統料理「スモーブロー」



まず、デンマークの伝統料理についてです。デンマークは、「スモーブロー」という料理が有名です。スモーブローとは、デンマークの伝統的なオープンサンドイッチで、薄切りのライ麦パンにバターを塗り、スモークサーモン、魚介、肉、野菜など色とりどりの具材をパンが見えなくなるほどたっぷりとのせた料理です。デンマーク語で「スモー」がバター、「ブロー」がパンを意味するそうです。

## 食の美味しさにこだわらない！



サンドイッチ



パンケーキ



シンプルで質素な料理が多い！

- そして、僕がデンマークに行って驚いたことは、食の美味しさに大してこだわらないという点です。朝はパンの上に具材をのせたサンドイッチ、昼はモーブロー、夜は肉料理とジャガイモ料理を食べます。デンマークの食事はシンプルで栄養重視の傾向があります。この写真のように、サンドイッチとシリアルだけの食事や、一品だけの食事もあったりします。ホストファミリーから聞いた話では、食材の質以上に、誰かとともに食べる食事の時間自体を大事にするそうです。

## フルーツ大量に食べる 🍓



まるごと  
りんご

朝昼晩、おやつに  
は必ずフルーツ

そして、デンマーク人はフルーツを大量に食べます。朝昼晩の食事には必ずフルーツが出てきて、弁当の中にまるごとりんごが入っていたこともありました。そして、家の台所にはフルーツを大量に保管してある冷蔵庫がありました。もしかしたら、デンマーク人にとってフルーツは主食と同じ感覚なのかもしれません。

## 日本と大違いのベーコン



日本のベーコン



- ・こげてる色
- ・カリカリ食感

デンマークのベーコン

そして、僕が驚いたことがもう一つあります。それは、ベーコンの種類が日本と大違いだということです。デンマークのベーコンはこげてる色で、一切れがとても小さく、カリカリした食感でした。日本と違う種類のものでしたが、今までに食べたことのない味で、とても美味しかったです。



次に、ホームステイの思い出を話したいと思います。



1家庭に一つ

トランポリン

1つ目は、トランポリンです。家の庭にとっても大きいトランポリンがありました。これが本当に楽しくて、夜遅くまでやっていた日もありました。ホストファミリーによると、デンマークではトランポリンを庭においている家が多いそうです。補足ですが、トランポリンの近くにはトマトがたくさんあました。庭中にトマトを植えているそうです。



そして、ホストファミリーとのお別れの前日に、デンマークの伝統的なデザートを出してもらいました。これは、「リスアラマン」という伝統的なデザートです。牛乳粥やホイップクリームで作った白いソースにチェリーソースを加えて食べます。一度食べると美味しすぎて手が止まらなくなって何度もお変わりするほど美味しかったミシュラン級のデザートでした。



たくさん  
釣れた！

ホストファミリーと  
一緒につりをした🐟



- そして、家の近くにあったとても大きな池で釣りをしました。釣りの餌は、生き物ではなくコーンを餌にしました。釣りは初めてだったのですが、ホストファミリーがやり方を丁寧に教えてくれたので、素人の僕でもやることができました。

最後のご飯はパンケーキ



ご飯がとても美味しかった！

ホストファミリーが出してくれた食事とても美味しかったです。僕が初めてここを訪れたときに卵料理が好きと言ったら、スクランブルエッグや目玉焼きなど卵を使った料理をたくさん出してくれた。そして、お別れする日の最後のご飯はパンケーキを出してくれました。

## まとめ



- 今回のこの体験は人生で一番楽しかったと言ってもいいぐらい刺激的で、新鮮で、感動的なものでした。また、異国の文化に触れることで自分自身の価値観が大きく変わりました。僕は、今回のこのデンマーク事業を通してとても素晴らしいものを得ることができました。そしてまたいつか機会があればまた海外に行ってみたいと思います。これで発表を終わります。

# 帰国報告会資料 (引率者)



# 令和7年度 登別市デンマーク友好都市 中学生派遣交流団帰国報告会



登別市保健福祉部健康推進グループ  
主査 小野 恭平

City of Noboribetsu



お疲れ様です。それでは令和7年度の帰国報告会を始めたいと思います。  
私は団長を務めさせていただきました、登別市保健福祉部健康推進グループ  
小野と申します。

まず私の方からは、今年度の旅の行程について大まかに説明させていただきます。  
その後、生徒から研修テーマの発表やデンマークの思い出についてひとりずつ発表し、最後に引率教諭の斎藤先生から生徒一人一人の成長した部分や印象に残っていることについて話していただこうと思います。

8月7日(木) DAY1

★日本出発

★デンマーク到着



5:00 市役所集合

7:30- 9:05 新千歳空港→羽田空港

11:35-18:10 羽田空港→コペンハーゲン空港

19:15-19:27 コペンハーゲン空港駅  
→コペンハーゲン中央駅

19:45 ホテル到着

時差マイナス7時間

City of Noboribetsu



1日目ですが、この日は日本を出発してデンマークに到着する日となります。朝5時に市役所に集合してから市バスで新千歳空港へ向かい、羽田空港へ向かいました。

羽田空港からコペンハーゲン空港までは約13時間のフライトでしたが、★デンマークとの時差が夏はマイナス7時間ということで時間は遡り、到着は現地時間で夜6時ごろとなりました。

到着後はコペンハーゲン中央駅にあるホテルに宿泊し、1日目を終わりました。

8月8日(金) DAY2

★オーデンセ見学

★みんなと対面



7:00 ホテルで朝食

9:32-11:00 コペンハーゲン中央駅→オーデンセ駅

アネさん・7年生と対面

11:30-15:30 昼食・オーデンセ市内見学

15:45-16:15 オーデンセ駅→リングゲ駅

ホストファミリーと対面

City of Noboribetsu



2日目はオーデンセの見学、そしてお世話になるリングゲフリー校の7年生やホストファミリーと会う日です。

ホテルでおいしい朝食をとってから、電車でオーデンセ駅へ向かいました。駅に到着すると、本事業で大変お世話になっているリングゲフリー校のアネさんや7年生が盛大に出迎えてくれました。

昼食をとってから、アンデルセン博物館などオーデンセ市内を見学しました。市内を見学した後は再び電車に乗り、ホストファミリーの待つリングゲへと向かいました。

到着後、生徒たちはホストファミリーと対面して、噂に聞いていた通り人さらいにあったようにそれぞれの家へ連れていかれました。

8月9日(土) DAY3

★スベンボー観光

★ビーチへ



- 9:00-10:00 リンゲからスベンボーへ  
10:00-12:00 スベンボー市内観光  
13:00-15:30 ビーチでエンジョイ  
16:30- ホストファミリー宅へ



City of Noboribetsu



3日目は港町・スベンボーを観光し、ビーチで遊びました。  
昨夜からみんなそれぞれのホストファミリー宅で過ごしたのですが、この日は朝スベンボーに集合し、みんなで市内観光をしました。  
駐車場で生徒たちが再開した時、昨日の夕方から数時間しか離れていなかったのに、日本人との再会をととても喜んでいたのが印象的でした。  
市内を観光した後はビーチへ向かい、海に入ったり遊具で遊んだりカニを釣ったりして過ごしました。  
みんな楽しそうでしたし、フリー校の7年生やホストファミリーとコミュニケーションをとっている場面が少しずつ増えてきました。

8月10日(日) DAY4  
★イーエスコー城  
見学



11:40-12:00 イーエスコー城へ  
12:00-13:30 自由時間・昼食  
13:30-15:30 城内見学  
16:00- ホストファミリー宅へ



City of Noboribetsu



4日目はイーエスコー城を見学しました。  
午前中は比較的ゆっくり過ごし、昼にイーエスコー城に集合しました。  
最初に昼食を含む自由時間とし、その後はみんなで城内見学をしました。  
この日は生徒たちだけで行動することが多く、団員達もフリー校の生徒と一緒に遊んだり見学している様子うかがえました。  
城の中の写真を1枚載せていますが、中に魚やペンギンはおらず、当然ですが本物のお城となっていました。  
このほかにも、救急車や消防車、キャンプ用品などが展示されている建物もあり、見た目がそっくりな本市のマリンパークとは全然違っていました。

8月11日(月) DAY5

★ファボー・ミッド  
フン市内見学  
★始業ピクニック



8:00-10:00 リンゲフリー校に集合・高校見学  
10:00-11:00 教会・図書館等を見学して市役所へ  
11:00-12:00 リズィさん・市長と対面  
12:00-13:30 昼食・市内見学  
14:00-18:00 学校見学・始業ピクニック

City of Noboribetsu



5日目はファボー・ミッドフン市内を見学し、夕方には始業ピクニックがありました。

この日は予定が盛りだくさんで、まずはホストファミリー宅からリンゲフリー校へ登校し、向かいにある高校や市立の学校、教会、図書館を見学し、市役所へ向かいました。

そこで登別市とファボー・ミッドフン市の交流を長年支えてくれているリズィさん、そしてファボー・ミッドフン市長と対面しました。市長は市やデンマークのさまざまな話をしてくださり、また、団員からの質問にも丁寧に答えてくれました。

その後リンゲフリー校へ戻り、生徒や保護者がたくさん集まる始業ピクニックに参加しました。

日本の始業式とは異なり、みんなで歌ったりゲームをしたり、文字通りピクニックをしたり楽しく過ごしました。

8月12日(火) DAY6

★プレゼン発表

★レゴランド

★お別れパーティー



8:00- 9:00 緊張のプレゼンテーション

11:00-16:00 レゴランドで自由時間

18:00-20:00 リンゲフリー校でお別れパーティー

20:00-20:30 歌とダンス披露・鬼おどり

City of Noboribetsu



6日目は日本でたくさん練習したプレゼン発表。そして楽しみにしていた人も多いレゴランドへ行きました。

右上の写真はプレゼン前の団員たちの様子ですが、これを見ても緊張感が伝わってくると思います。

ただ、本番はみんな英語で堂々と登別について発表していました。

この緊張から解き放たれ、次はバスに乗ってレゴランドへ行きました。

この日はあいにくの天気でしたが、みんな楽しい時間を過ごすことができました。

それからリンゲフリー校に戻り、お別れパーティーが開かれました。

各家庭から料理を持ち寄るバイキング形式の夕食だったのですが、私たちはうどんをふるまいました。

パーティーの後は、こちらでも日本でたくさん練習した歌とダンスを披露しました。

歌はMISIAのアイノカタチ、ダンスは逃げ恥の恋ダンス、どちらも大好評でたくさんの声援や拍手をいただきました。

そして最後にみんなで輪になって鬼おどりを踊りました。

日本とデンマークが一つになった瞬間でした。

8月13日(水) DAY7  
★ホストファミリーとの別れ  
★コペンハーゲン市内観光



9:21-11:06 リンゲ駅→コペンハーゲン中央駅へ  
12:00-15:00 コペンハーゲン市内を観光  
(人魚姫の像・ニューハウン)  
15:00- **20:00** チボリ公園で自由時間  
21:00- ホテルへ

City of Noboribetsu



7日目はとうとうお別れの日です。  
リンゲ駅に集合し、ホストファミリーとの別れを惜しみながらリンゲを後にします。  
コペンハーゲンに着いてホテルに荷物を置いてから、コペンハーゲン市内を観光しました。  
この日はとても暑かったので、日陰で休みながら人魚姫の像やニューハウンなどを観光しました。  
それから世界最古の遊園地・チボリ公園へ向かいました。  
日中の暑さやホームステイの疲れもあったはずなのですが、生徒たちはとても楽しそうで、★予定を延長して遊び倒しました。

8月14日(木) DAY8  
8月15日(金) DAY9  
★さよならデンマーク



9:00- 9:50 ホテル→コペンハーゲン空港駅へ  
10:00-12:45 出国手続き・買い物  
12:45- **7:55** コペンハーゲン空港→羽田空港  
10:00-11:35 ~~羽田空港→新千歳空港~~  
15:00 市役所到着

時差プラス7時間

City of Noboribetsu



そして8日目・9日目となっていますが、とうとう最終日、日本に帰国する日です。

空港に向かい、出国手続きを済ませてからお土産をたくさん買いました。この時点でほぼ全員、日本に帰りたくないと言っていたと記憶しています。コペンハーゲン空港から羽田空港までは約12時間と、行きより少しだけ短いフライトでしたが、★昼に出発して朝に到着するという不思議な感覚がありました。

到着して全員真っ先に「暑すぎる」と感じたと思います。

デンマークは朝晩は肌寒く、日中暑い日もありましたが、とても快適な気候だったので、ここでもデンマークが恋しくなりました。

旅の間、団員たちはずっと元気でしたが、さすがに帰りのバスでは爆睡でした。



以上がおおまかな旅の流れとなります。  
この後、生徒からひとりずつ発表をしてもらいます。  
ここからが本番となりますので、生徒たちの成長を肌で感じていただければ  
と思います。



令和7年度登別市デンマーク  
友好都市中学生派遣交流事業  
帰国報告会

登別市立幌別中学校 齋藤 智弥

行事が終わった後  
ただやらせっぱなしで終わるのではなく  
必ず子どもたちが行ったことを  
価値づけしてください

ひとりひとりへメッセージ

# 戒野義文



# 大槻樹音



# 中村柊里



# 及川諭愛



# 佐々木煌我



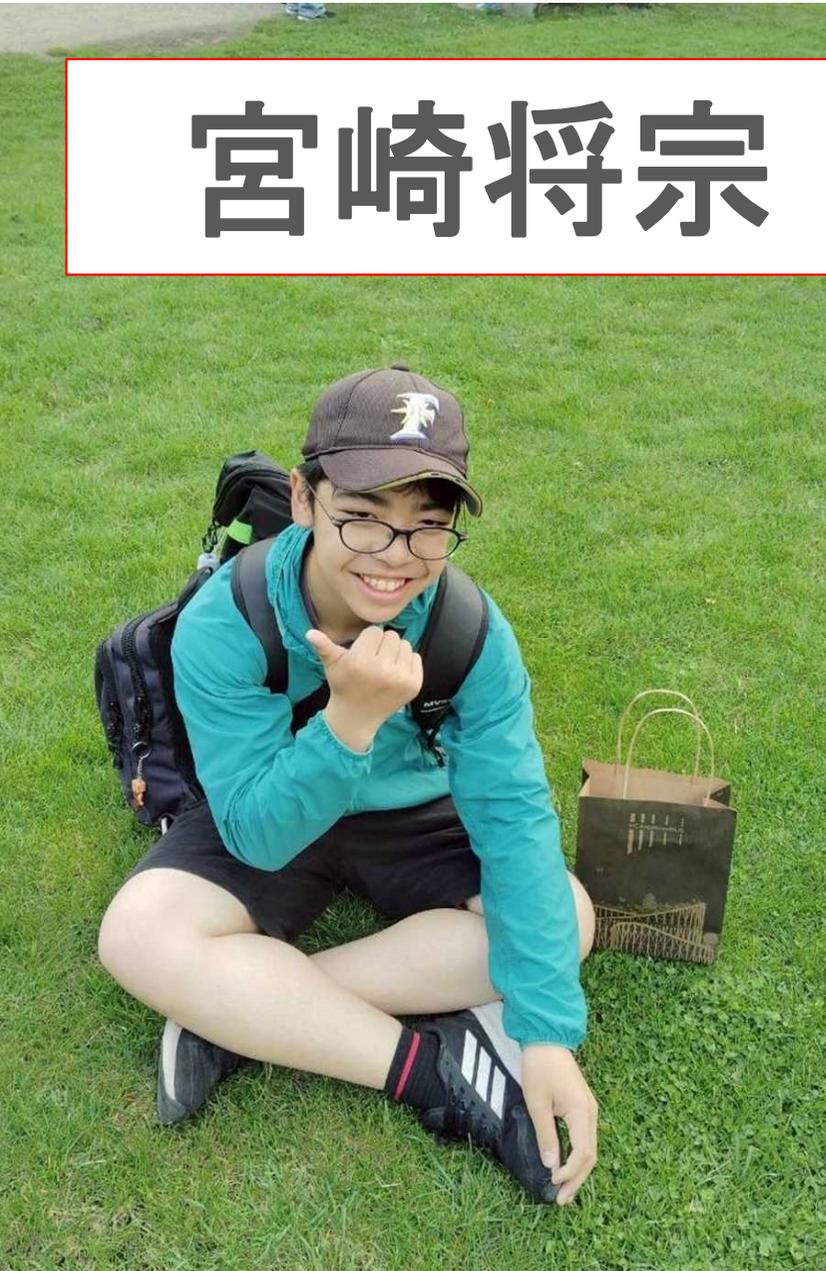
# 佐藤駿輝



# 高屋敷幸也



# 宮崎将宗



# 山内陽斗



最後に

# ご清聴ありがとうございました



## 友好都市協定書

デンマーク王国リングゲ市及びウイスリングゲ市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リングゲ市、ウイスリングゲ市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

### The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフュン市長  
Mayor of Faaborg-Midtfyn  
ボー・アナスン  
Bo Andersen



登別市長  
Mayor of Noboribetsu  
上野 晃  
Akira Ueno